

秋田県の地価と不動産市場の動向に関する アンケート結果

～秋田県不動産市況D I 調査（第14回）～



©2015 秋田県んだッチ R040016

**がりと頑張るすべ！
秋田県**

令和4年6月

一般社団法人秋田県不動産鑑定士協会

後援：秋田県

目 次

I. アンケート結果（概要）	1
II. D I について	2
（I）D I とは	2
（II）本調査でのD I 算出方法	2
III. アンケート調査の概要	4
（I）調査の目的	4
（II）調査の内容	4
（III）地域区分	4
（IV）今回調査の概要	5
（V）回答者の主な営業地域	5
（VI）アンケート調査票	6
IV. アンケート調査結果（詳細）	8
（I）地価の動向	8
（II）取引件数の動向	15
（III）賃料水準の動向	22
（IV）建設資材の価格高騰と需要への影響	27
（V）空き家、空き地の利用方法について	30
（VI）その他コメント	34

I. アンケート結果（概要）

秋田県の不動産市場の動向に関するアンケート結果の概要は以下のとおりです。

	項目	前回調査から傾向変化	前回調査時点と今回調査時点の比較 (実感値)	
地価動向	住宅地		+3.8 → +6.6	指数はやや改善している。
	商業地		△12.3 → △12.9	指数は横ばいである。
取引件数	住宅地		+0.3 → △5.4	指数は悪化している。
	商業地		△25.4 → △20.4	指数は改善している。
賃料水準	居住用物件		△9.7 → △4.7	指数は改善している。
	店舗・事務所等		△21.6 → △21.7	指数は横ばいである。
今回の調査結果				
地価の実感値では、住宅地はやや改善、商業地は横ばいであるが、件数は住宅地で悪化、商業地は改善の傾向にある。新型コロナの影響の長期化、建設資材の高騰による需要の変化が表れていると思料される。				

矢印の向き	前回指数から
上	5.0P 以上の改善
斜め上	1.6P 以上、5.0P 未満の改善
横ばい	△1.5P～1.5P の範囲
斜め下	△1.6P 以上、△5.0P 未満の悪化
下	△5.0 以上の悪化

Ⅱ．D I について

（Ⅰ）D I とは

D I とは、DiffusionIndex の略で、現況や先行きの見通し等についての定性的な判断を指標として集計加工した指数であり、経済指標等において広く活用されている。

D I として指数化することにより、長期の動きを時系列で把握したり、地域間の比較を行ったりすることが容易となる。

- ・D I = Diffusion Index の略、景気動向指数、業況判断指数
- ・Diffusion = 普及・指数・拡散、Index = 指標・指数

（Ⅱ）本調査でのD I 算出方法

本調査におけるD I の算出方法は、各判断項目について上昇（または増加）から下落（または減少）までの5段階の選択肢を用意し、選択肢毎の回答数を単純集計して全回答に対する構成比率を求め、次式により算出する。

（D I 指数の算出方法）

（例）	1	2	3	4	5	6
現在地価動向	上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	下落	不明
回答数	A	B	C	D	E	F

$$D I = \{(A \times 2) + B - D - (E \times 2)\} \div 2 \div (A + B + C + D + E) \times 100$$

（サンプル）

（例）	1	2	3	4	5	6
現在地価動向	上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	下落	不明
回答数	10	20	5	20	15	7

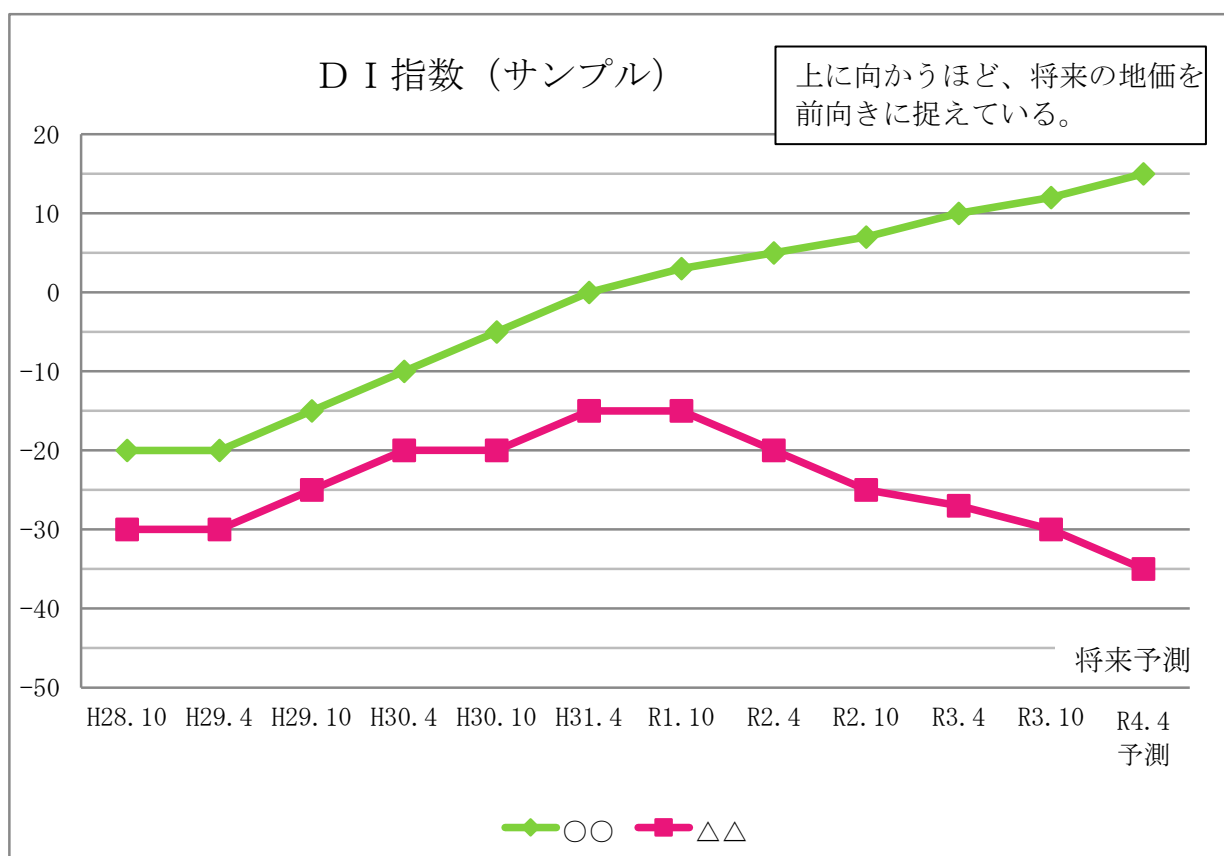
$$D I = \{(10 \times 2) + 20 - 20 - (15 \times 2)\} \div 2 \div (10 + 20 + 5 + 20 + 15) \times 100 \\ = -7.1$$

動向指数がゼロを超えると、回答者は市況に対して前向き（上昇傾向）に考えているといえる。一方、動向指数のD I がゼロを下回っていれば、回答者は地価動向について後向き（下落傾向）に考えているといえる。

また、回答者全員が「上昇」と答えると100で、回答者全員が「減少」と答えると-100となり、理論上のD I の幅は±100の範囲となる。

(例示) 地価動向

エリア	H28. 10	H29. 4	H29. 10	H30. 4	H30. 10	H31. 4	R1. 10	R2. 4	R2. 10	R3. 10	R4. 4 予測
〇〇	-20	-15	-10	-5	0	3	5	7	10	12	15
△△	-30	-25	-20	-20	-15	-15	-20	-25	-27	-30	-35



例えば、地価動向について、〇〇エリアと△△エリアで集計を行ったとする。

〇〇エリアであれば、半年毎に実感値が高くなっており、地価動向は改善していることとなる。また、半年先の予測値は右肩上がりになることから、地価動向を前向きに捉えていることとなる。

一方、△△エリアであれば、半年毎の実感値が低くなっており、地価動向は悪化していることとなる。半年先の予測値は右肩下がりになることから、地価動向を後向きに捉えていることとなる。

Ⅲ．アンケート調査の概要

（Ⅰ）調査の目的

本調査は、県内不動産価格等の動向を調査し、指標化のうえ、県民等へ広く公表することにより、県内不動産市場に係る情報提供機能の強化及び透明性の向上、県内外の投資家や個人による不動産取引の活性化、不動産の有効活用の促進等を図ることを目的としている。

（Ⅱ）調査の内容

本調査は、調査時点における過去半年間の不動産市場の推移に関する実感と、その後の半年間の予測について、県内不動産関係業者（公益社団法人秋田県宅地建物取引業協会、公益社団法人全日本不動産協会秋田県本部）にアンケート調査を郵送にて実施し、その結果をD I として県全体のほか、地域区分別に集計した。

調査事項は、地価、取引件数、賃料水準等の動向である。

（Ⅲ）地域区分

本調査では、秋田県を6地域へと区分していたが、第8回調査以降、エリア区分を改定し、4地域へと区分している。

それぞれに含まれる市町村等は以下のとおりである。

なお、エリア区分変更にあたり、過年度分については再集計を行っている。

秋田エリア	秋田市
県北エリア	大館市、鹿角市、能代市、北秋田市、小坂町、藤里町、三種町、八峰町、上小阿仁村
県央エリア	由利本荘市、にかほ市、潟上市、男鹿市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県南エリア	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

(Ⅳ) 今回調査の概要

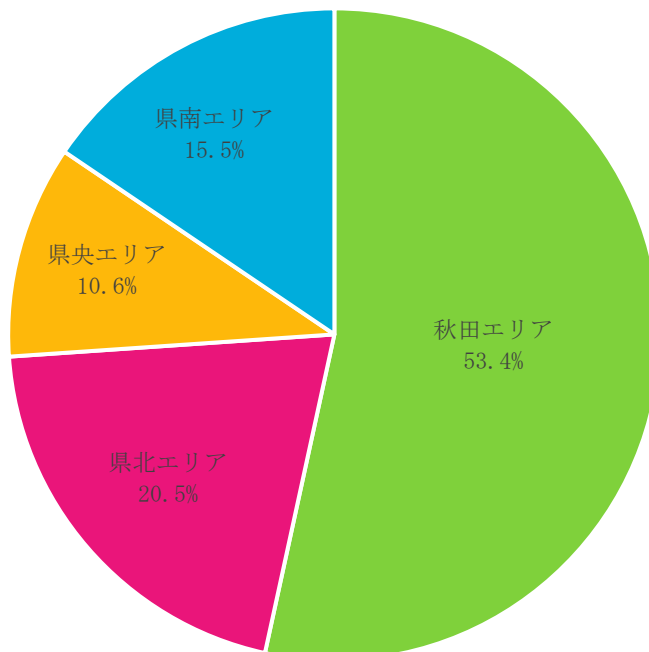
実施時期 : 令和4年4月

発送数 : 368

有効回答数 : 161 (回答率43.8%)

(Ⅴ) 回答者の主な営業地域

エリア区分	秋田	県北	県央	県南	合計
回答数	86	33	17	25	161



(VI) アンケート調査票

FAX送信先 018-838-6558 (返信用封筒をご利用頂いても構いません)

秋田県の不動産市場動向に関するアンケート票

一般社団法人秋田県不動産鑑定士協会

(後援:秋田県)

問 1	秋田県内における貴社(支店・営業所等の場合は当該支店・営業所)の主な営業地域をお聞かせください。(最も取扱件数の多い地域を一つ選んで○をつけてください。)		
	1. 秋田市	2. 能代市	3. 横手市
	4. 大館市	5. 男鹿市	6. 湯沢市
	7. 鹿角市・小坂町	8. 由利本荘市	9. 潟上市
	10. 大仙市・美郷町	11. 北秋田市・上小阿仁村	12. にかほ市
	13. 仙北市	14. 山本郡(藤里町・三種町・八峰町)	
	15. 南秋田郡(五城目町・八郎潟町・井川町・大潟村)	16. 雄勝郡(羽後町・東成瀬村)	

以下では、主な営業地域における全般的な傾向について、該当する項目一つに○をつけて下さい。

問 2	現在の地価(R4.4)を、半年前(R3.10)と比較して、どのように感じていますか？					
住宅地の地価	1. 上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 下落	6. 不明
商業地の地価	1. 上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 下落	6. 不明
問 3	半年後の地価(R4.10)は、現在(R4.4)と比較して、どのように推移すると予測しますか？					
住宅地の地価	1. 上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 下落	6. 不明
商業地の地価	1. 上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 下落	6. 不明
問 4	現在の取引件数(R4.4)は、半年前(R3.10)と比較してどのように感じていますか？					
住宅地の取引	1. 増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 減少	6. 不明
商業地の取引	1. 増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 減少	6. 不明
問 5	半年後の取引件数(R4.10)は、現在(R4.4)と比較してどのように推移すると予測しますか？					
住宅地の取引	1. 増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 減少	6. 不明
商業地の取引	1. 増加	2. やや増加	3. 横ばい	4. やや減少	5. 減少	6. 不明
問 6	現在の賃料水準(R4.4)は、半年前(R3.10)と比較してどのように感じていますか？					
居住用物件の賃料	1. 上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 下落	6. 不明
店舗・事務所等の賃料	1. 上昇	2. やや上昇	3. 横ばい	4. やや下落	5. 下落	6. 不明

問 7	ウッドショックを始め様々な建設資材の価格高騰が指摘されていますが、実際の取引価格への影響はどのように感じていますか？	
	1	取引価格へ影響があり、需要を減退させる方向で作用している
	2	取引価格へ影響があるが、需要に大きな変化は感じない
	3	取引価格に影響があるが、総額感を大きく変えないような施策を講じている
	4	取引価格に大きな影響は感じない
	5	不明

問8	空き家、空き地が何らかの形で利用される場合に、どのような利用方法が多いですか？	
	1	戸建住宅用地として利用する(既存住宅を取り壊すケースを含む)
	2	中古物件として売買する(リフォーム実施を含む)
	3	駐車場として利用する
	4	資材置場として利用する
	5	その他
		(自由回答)

問 9	特に地価の変動が著しいエリアや土地価格・不動産取引の現状、今後の動向予想、その他のご意見など、ご自由にお書きください。	

以上で質問は終わりです。ご多忙のなか、ご協力ありがとうございました。

令和4年5月12日(木)までに同封の返信用封筒またはFAXにて、返送して頂きますようお願いします。

※返信用封筒の宛名は(株)新和工芸となっておりますが、管理は(株)ShinwaACにて適切に行っておりますので、そのままご提出下さい。

返信先：(一社)秋田県不動産鑑定士協会(アンケート管理先：(株)ShinwaAC)

FAX送信先 018-838-6558

現在、DI調査のアンケート方法を再検討しております。今後の回答方法についてご教示下さい	
アンケート方法	従来通り(郵送・FAX) インターネットでの回答 ←いずれかに○印をつけて下さい
調査結果の送付	希望する 希望しない ←いずれかに○印をつけて下さい(配布物は無償です)
冊子の配布を希望いただける場合、貴社名は記入して下さい、担当者名と住所は記入なしでも構いません	
貴社名	
担当者	
送付先	希望される場合、アンケート送付した住所に送付しますが、異なる場合は下記に記載下さい。

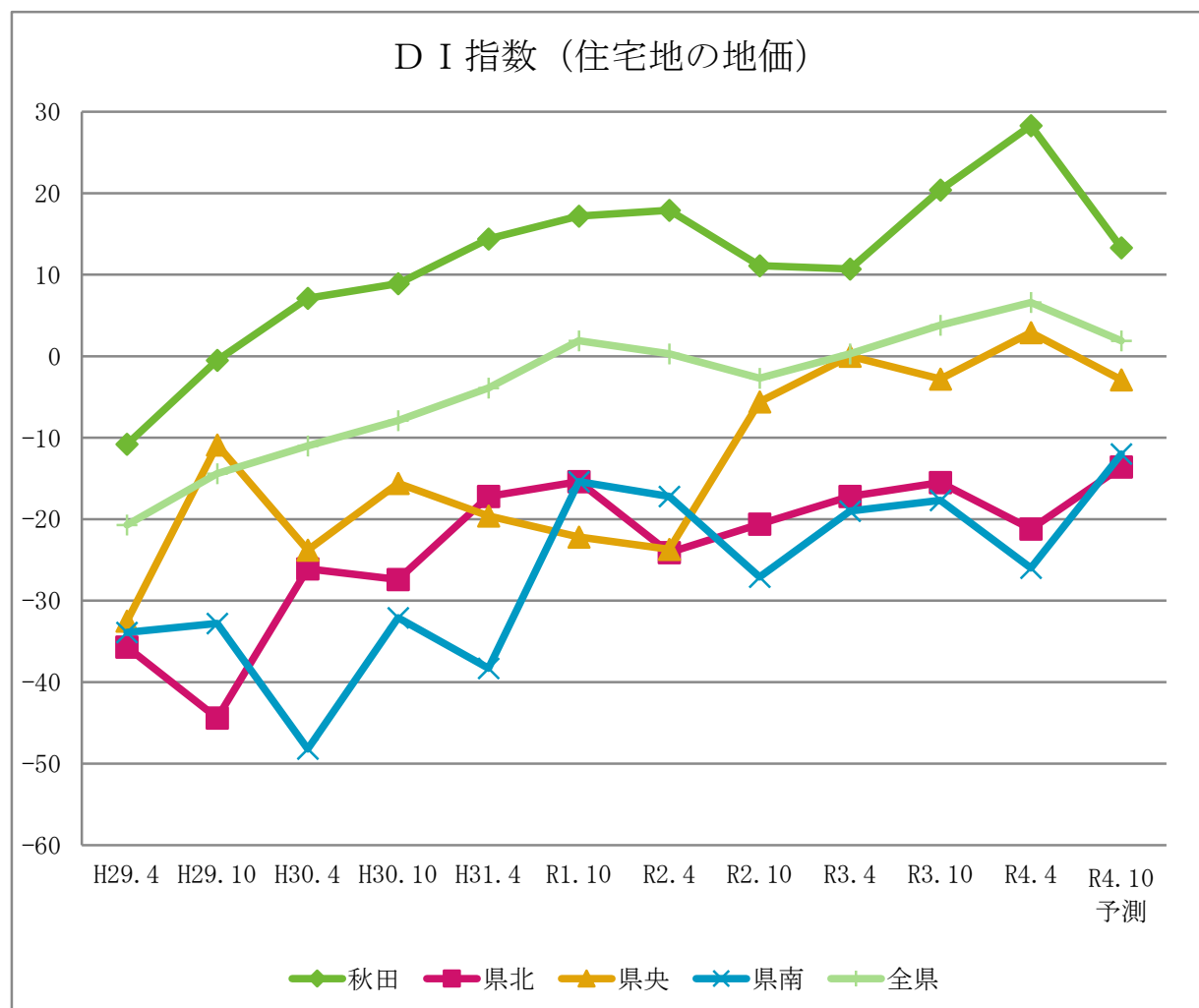
※アンケート回答は、本調査以外の目的に使用することはありません。また、結果は匿名で集計します。

Ⅳ. アンケート調査結果（詳細）

（Ⅰ）地価の動向

（1）住宅地

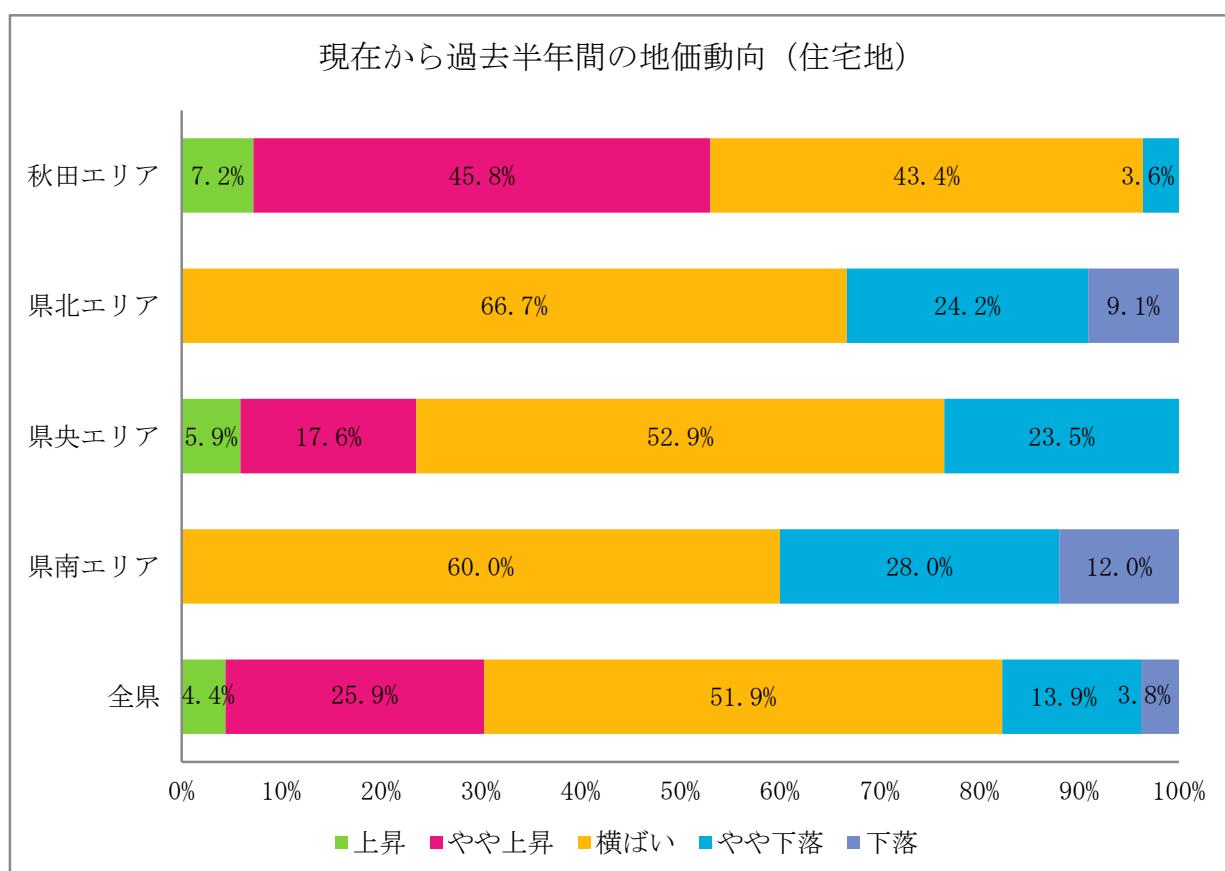
①D I 指数



エリア	H29.4	H29.10	H30.4	H30.10	H31.4	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10	R4.4	R4.10 予測
秋田	-10.8	-0.5	7.1	8.9	14.4	17.2	17.9	11.1	10.7	20.4	28.3	13.3
県北	-35.7	-44.4	-26.1	-27.4	-17.2	-15.4	-24.1	-20.6	-17.2	-15.5	-21.2	-13.6
県央	-32.5	-10.9	-23.8	-15.6	-19.6	-22.2	-23.7	-5.6	0	-2.8	2.9	-2.9
県南	-33.9	-32.8	-48.2	-32.1	-38.3	-15.4	-17.2	-27.1	-19	-17.7	-26	-12
全県	-20.7	-14.4	-11	-7.9	-3.9	1.9	0.3	-2.7	0.3	3.8	6.6	1.9

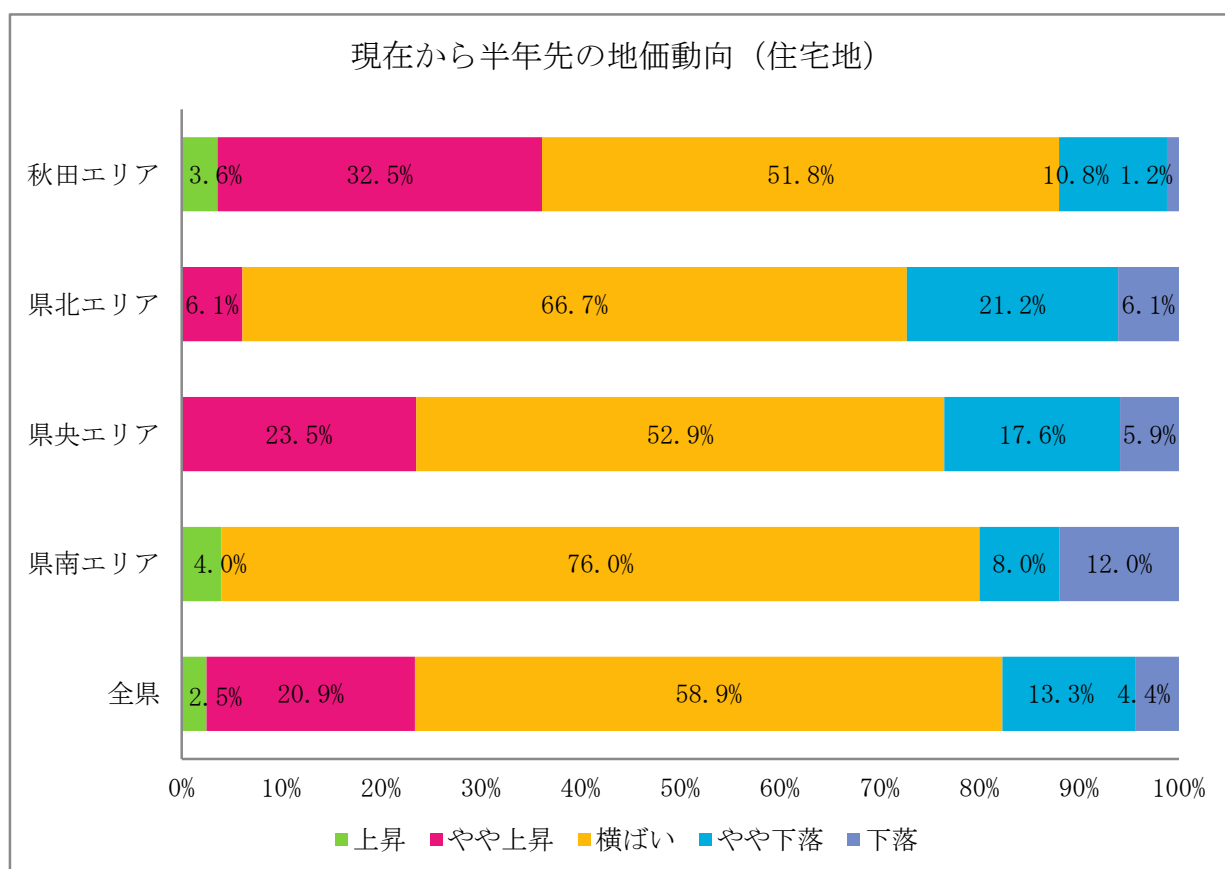
②実感値（住宅地）

問2 地価動向（現在）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における過去半年の地価動向（住宅地）		上昇	やや 上昇	横ばい	やや 下落	下落		不明	
秋田エリア	回答数	6	38	36	3	0	83	3	86
DI 指数	28.3P	7.2%	45.8%	43.4%	3.6%	0.0%	100.0%		
県北エリア	回答数	0	0	22	8	3	33	0	33
DI 指数	-21.2P	0.0%	0.0%	66.7%	24.2%	9.1%	100.0%		
県央エリア	回答数	1	3	9	4	0	17	0	17
DI 指数	2.9P	5.9%	17.6%	52.9%	23.5%	0.0%	99.9%		
県南エリア	回答数	0	0	15	7	3	25	0	25
DI 指数	-26.0P	0.0%	0.0%	60.0%	28.0%	12.0%	100.0%		
全県	回答数	7	41	82	22	6	158	3	161
DI 指数	6.6P	4.4%	25.9%	51.9%	13.9%	3.8%	99.9%		



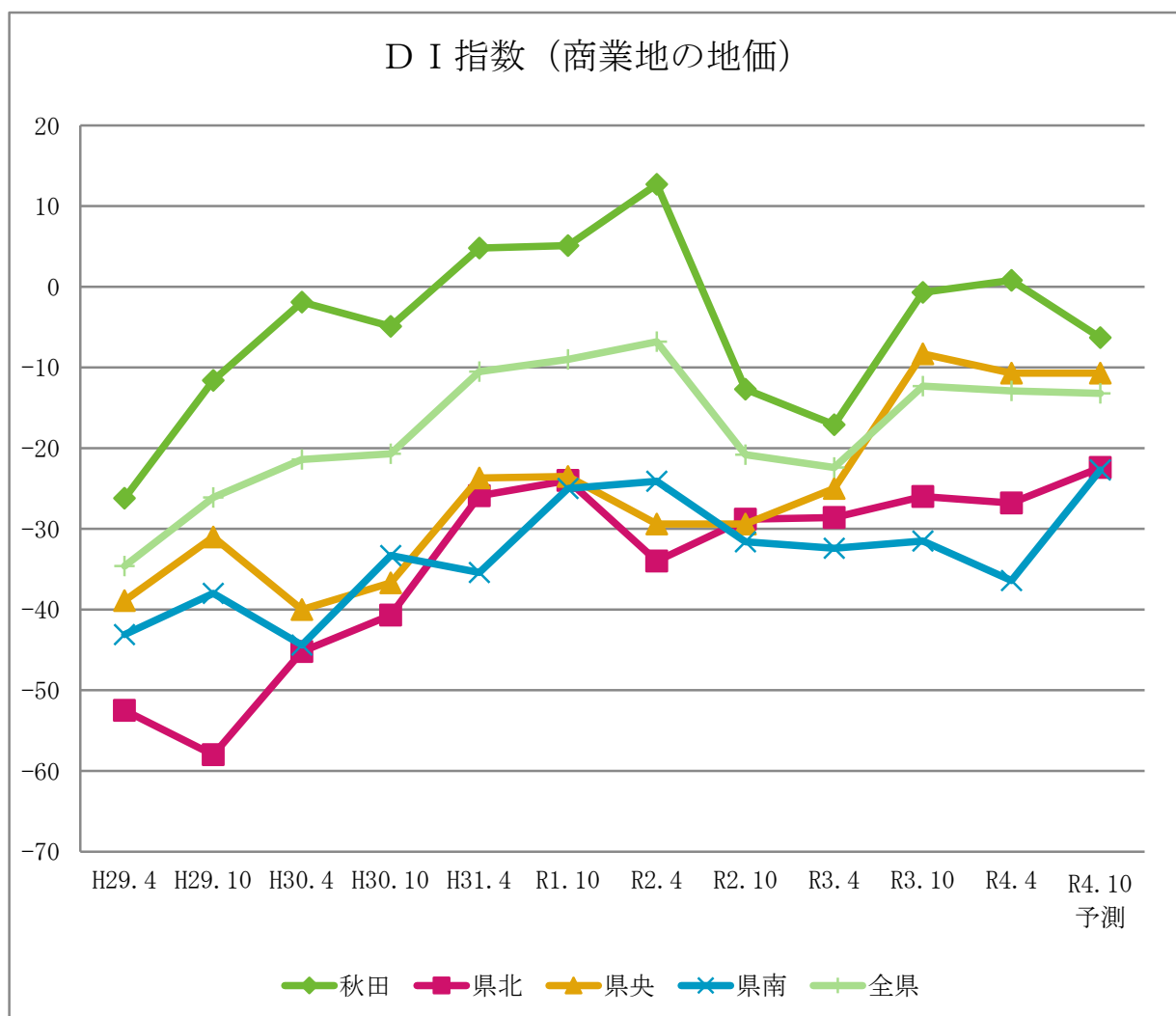
③予測値（住宅地）

問3 地価動向（将来）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における半年先の地価動向（住宅地）		上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	下落		不明	
秋田エリア	回答数	3	27	43	9	1	83	3	86
DI 指数	13.3P	3.6%	32.5%	51.8%	10.8%	1.2%	99.9%		
県北エリア	回答数	0	2	22	7	2	33	0	33
DI 指数	-13.6P	0.0%	6.1%	66.7%	21.2%	6.1%	100.1%		
県央エリア	回答数	0	4	9	3	1	17	0	17
DI 指数	-2.9P	0.0%	23.5%	52.9%	17.6%	5.9%	99.9%		
県南エリア	回答数	1	0	19	2	3	25	0	25
DI 指数	-12.0P	4.0%	0.0%	76.0%	8.0%	12.0%	100.0%		
全県	回答数	4	33	93	21	7	158	3	161
DI 指数	1.9P	2.5%	20.9%	58.9%	13.3%	4.4%	100.0%		



(2) 商業地

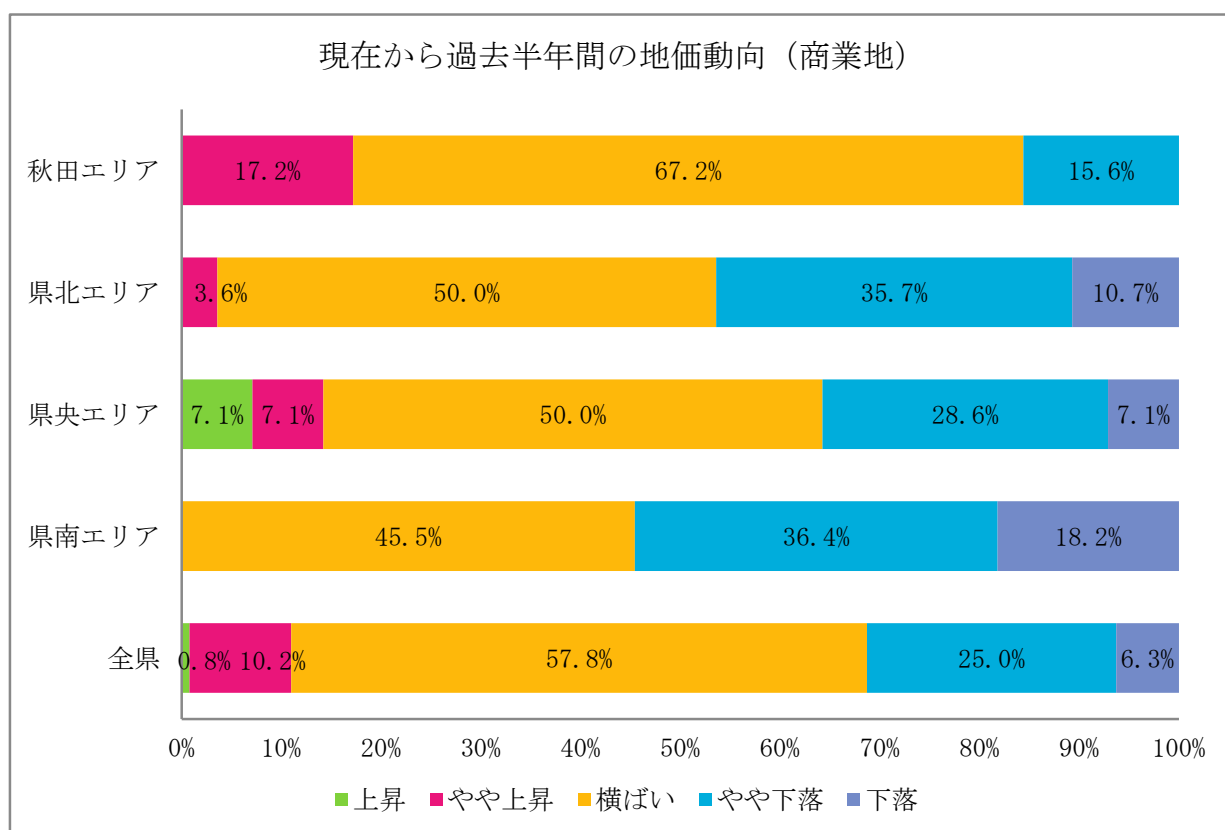
① D I 指数



エリア	H29.4	H29.10	H30.4	H30.10	H31.4	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10	R4.4	R4.10 予測
秋田	-26.2	-11.6	-1.9	-4.9	4.8	5.1	12.7	-12.7	-17.1	-0.7	0.8	-6.3
県北	-52.5	-58	-45.2	-40.7	-25.9	-24	-34	-28.8	-28.6	-26	-26.8	-22.4
県央	-38.9	-31	-40	-36.7	-23.7	-23.5	-29.4	-29.4	-25	-8.3	-10.7	-10.7
県南	-43.1	-38	-44.4	-33.3	-35.4	-25	-24.1	-31.6	-32.4	-31.5	-36.4	-22.7
全県	-34.6	-26.1	-21.4	-20.7	-10.5	-9	-6.8	-20.8	-22.4	-12.3	-12.9	-13.2

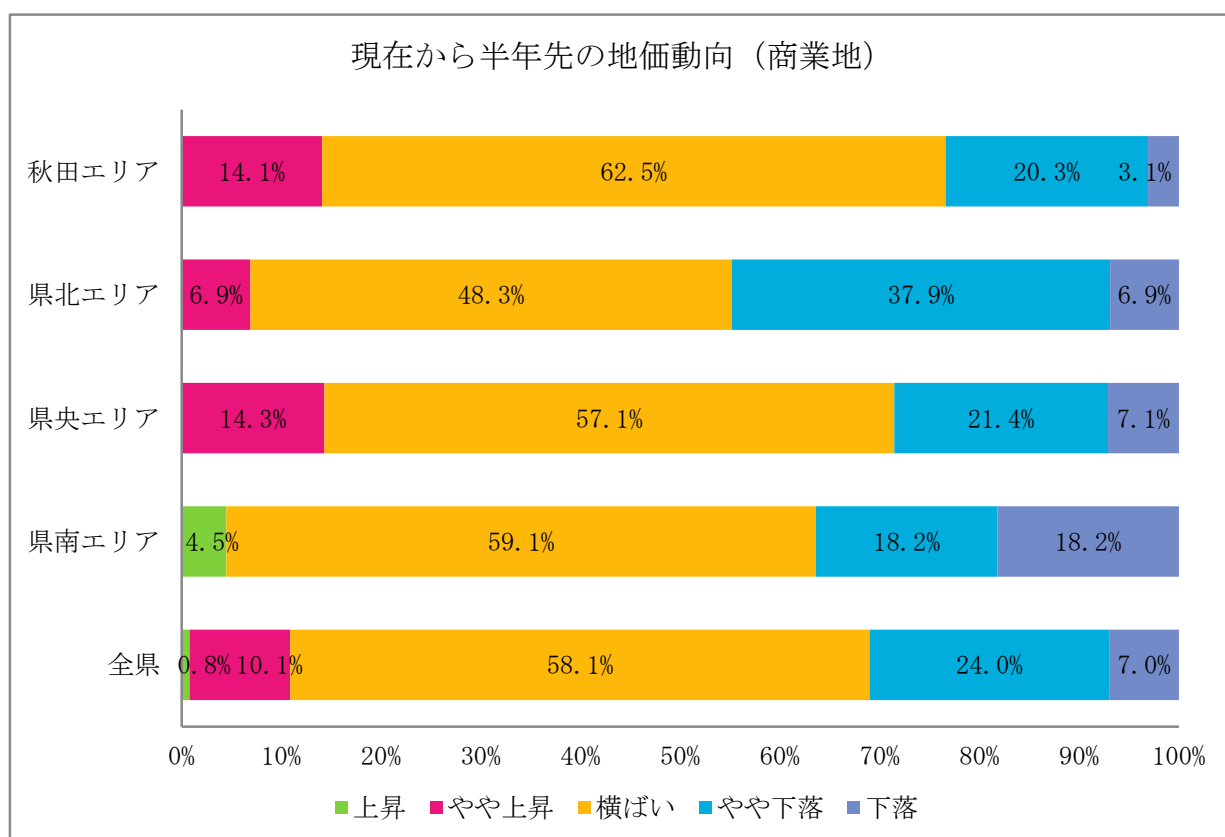
②実感値（商業地）

問2 地価動向（現在）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における過去半年の地価動向（商業地）		上昇	やや 上昇	横ばい	やや 下落	下落		不明	
秋田エリア	回答数	0	11	43	10	0	64	22	86
DI 指数	0.8P	0.0%	17.2%	67.2%	15.6%	0.0%	100.0%		
県北エリア	回答数	0	1	14	10	3	28	5	33
DI 指数	-26.8P	0.0%	3.6%	50.0%	35.7%	10.7%	100.0%		
県央エリア	回答数	1	1	7	4	1	14	3	17
DI 指数	-10.7P	7.1%	7.1%	50.0%	28.6%	7.1%	99.9%		
県南エリア	回答数	0	0	10	8	4	22	3	25
DI 指数	-36.4P	0.0%	0.0%	45.5%	36.4%	18.2%	100.1%		
全県	回答数	1	13	74	32	8	128	33	161
DI 指数	-12.9P	0.8%	10.2%	57.8%	25.0%	6.3%	100.1%		



③予測値（商業地）

問3 地価動向（将来）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における半年先の地価動向（商業地）		上昇	やや 上昇	横ばい	やや 下落	下落		不明	
秋田エリア	回答数	0	9	40	13	2	64	22	86
DI 指数	-6.3P	0.0%	14.1%	62.5%	20.3%	3.1%	100.0%		
県北エリア	回答数	0	2	14	11	2	29	4	33
DI 指数	-22.4P	0.0%	6.9%	48.3%	37.9%	6.9%	100.0%		
県央エリア	回答数	0	2	8	3	1	14	3	17
DI 指数	-10.7P	0.0%	14.3%	57.1%	21.4%	7.1%	99.9%		
県南エリア	回答数	1	0	13	4	4	22	3	25
DI 指数	-22.7P	4.5%	0.0%	59.1%	18.2%	18.2%	100.0%		
全県	回答数	1	13	75	31	9	129	32	161
DI 指数	-13.2P	0.8%	10.1%	58.1%	24.0%	7.0%	100.0%		



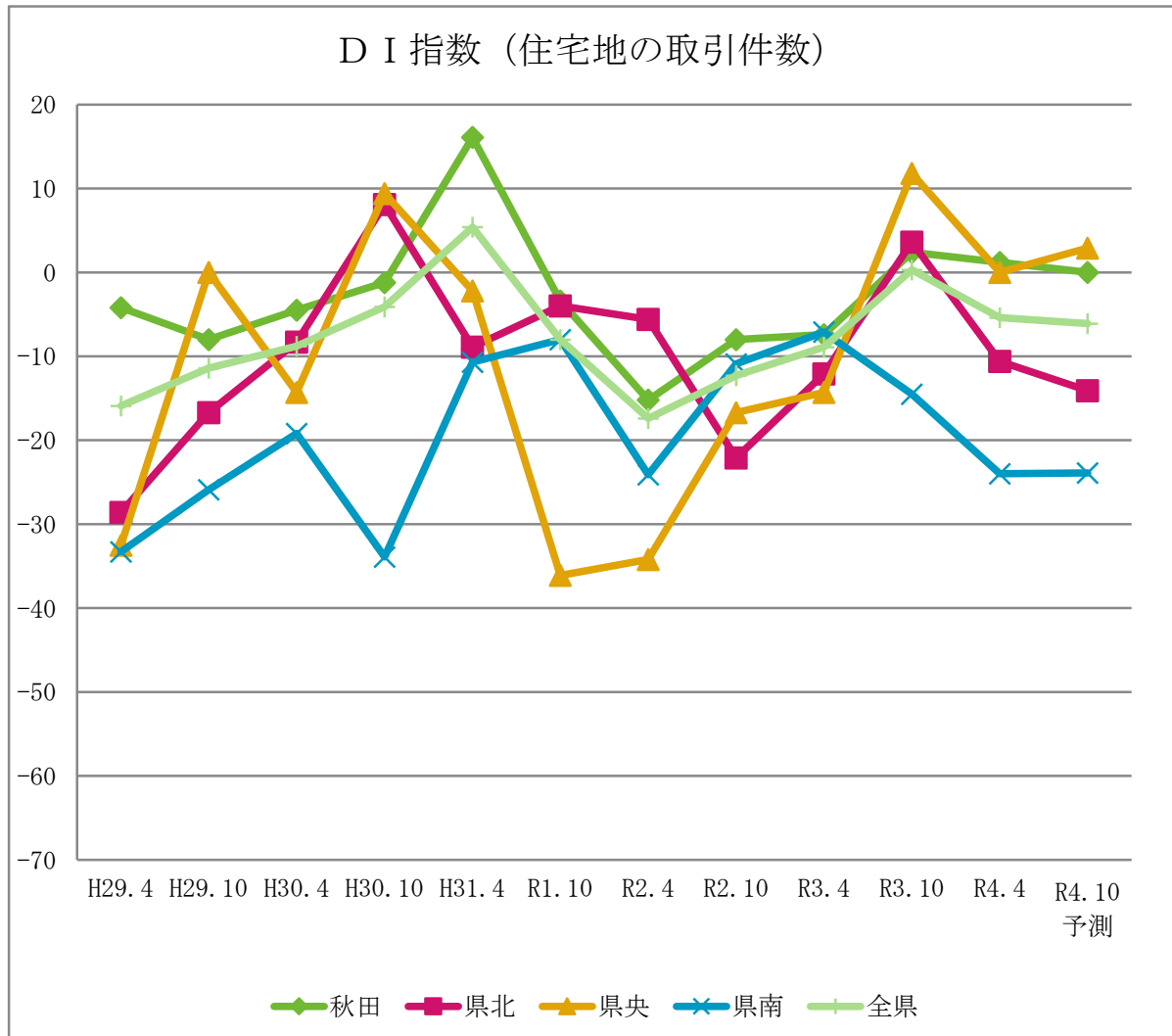
(3) 地価動向に関するまとめ

住宅地
(県全体) 全県における過去半年間の地価動向に関する実感値（R3.10～R4.4）は+6.6P（前期+3.8P）で、今後半年間における予測値（R4.4～R4.10）は+1.9Pであった。 以下の項目でも同様であるが、秋田エリアの回答者が多いため、秋田エリアの指数が全県における指数を押し上げる要因となっている。 実感値はプラスの指数の上昇幅が増す結果となった。後述のフリーコメントにおいても新型コロナに対する言及は減少傾向にあり、住宅需要の堅調さが見て取れる。他方で、予測値においてはプラスの指数ながら現状より小幅のプラスの見通しである。 (地域別) 実感値では、秋田エリアを除くと県北、県南はマイナスの幅が大きくなっているが、県央エリアではプラスの指数に転じている。最も指数が高いのは秋田エリアで、+28.3P（前期+20.4P）であった。最も指数が低いのは県南エリア△26P（前期△17.7P）であった。 予測値では、秋田エリアの指数が最も高く、県北エリアの指数が最も低い。秋田エリア以外はいずれもマイナスの指数を示している。
商業地
(県全体) 全県における過去半年間の地価動向に関する実感値（R3.10～R4.4）は△12.9P（前期△12.3P）で、今後半年間における予測値（R4.4～R4.10）は△13.2Pであった。 全体的に住宅地と比較して商業地の指数はマイナスが大きい。 実感値は前回調査と概ね同水準のマイナス指数である。予測値でもマイナスであるが、今回調査並みの指数である。 (地域別) 実感値では、秋田エリアが改善したのみで他のエリアはいずれもマイナス幅が大きくなっている。最も指数が高いのは秋田エリアで、+0.8P（前期△0.7P）で、最も指数が低いのは県南エリア△36.4P（前期△31.5P）であった。予測値では、秋田エリアの指数が最も高く、県南エリアの指数が最も低い。

(Ⅱ) 取引件数の動向

(1) 住宅地

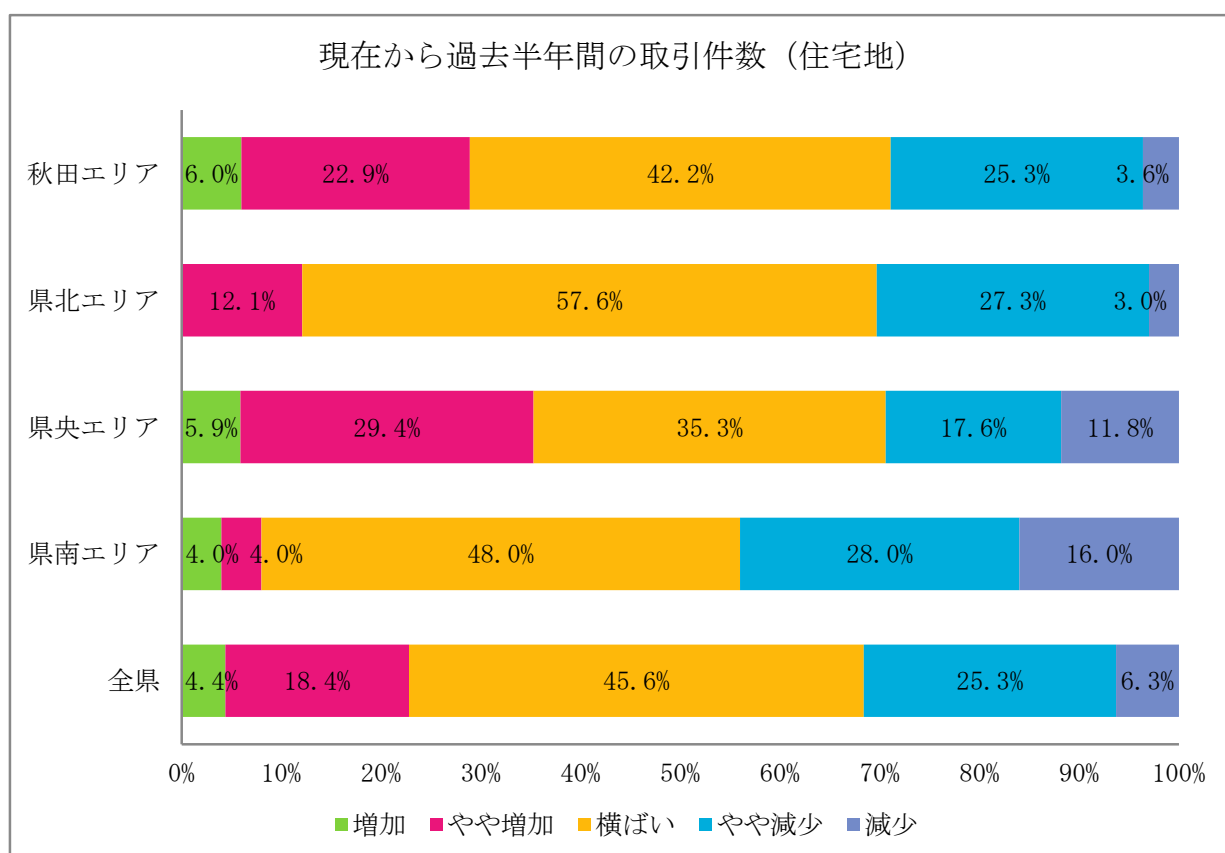
① D I 指数



エリア	H29.4	H29.10	H30.4	H30.10	H31.4	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10	R4.4	R4.10 予測
秋田	-4.2	-8	-4.5	-1.2	16.1	-3.4	-15.2	-8	-7.4	2.4	1.2	0
県北	-28.6	-16.7	-8.3	8.1	-8.9	-4	-5.6	-22.1	-12.1	3.6	-10.6	-14.1
県央	-32.5	0	-14.3	9.4	-2.2	-36.1	-34.2	-16.7	-14.3	11.8	0	2.9
県南	-33.3	-25.9	-19.2	-33.9	-10.7	-8	-24.1	-10.9	-7.1	-14.5	-24	-23.9
全県	-15.9	-11.4	-8.8	-4.1	5.4	-8	-17.4	-12.3	-8.9	0.3	-5.4	-6.1

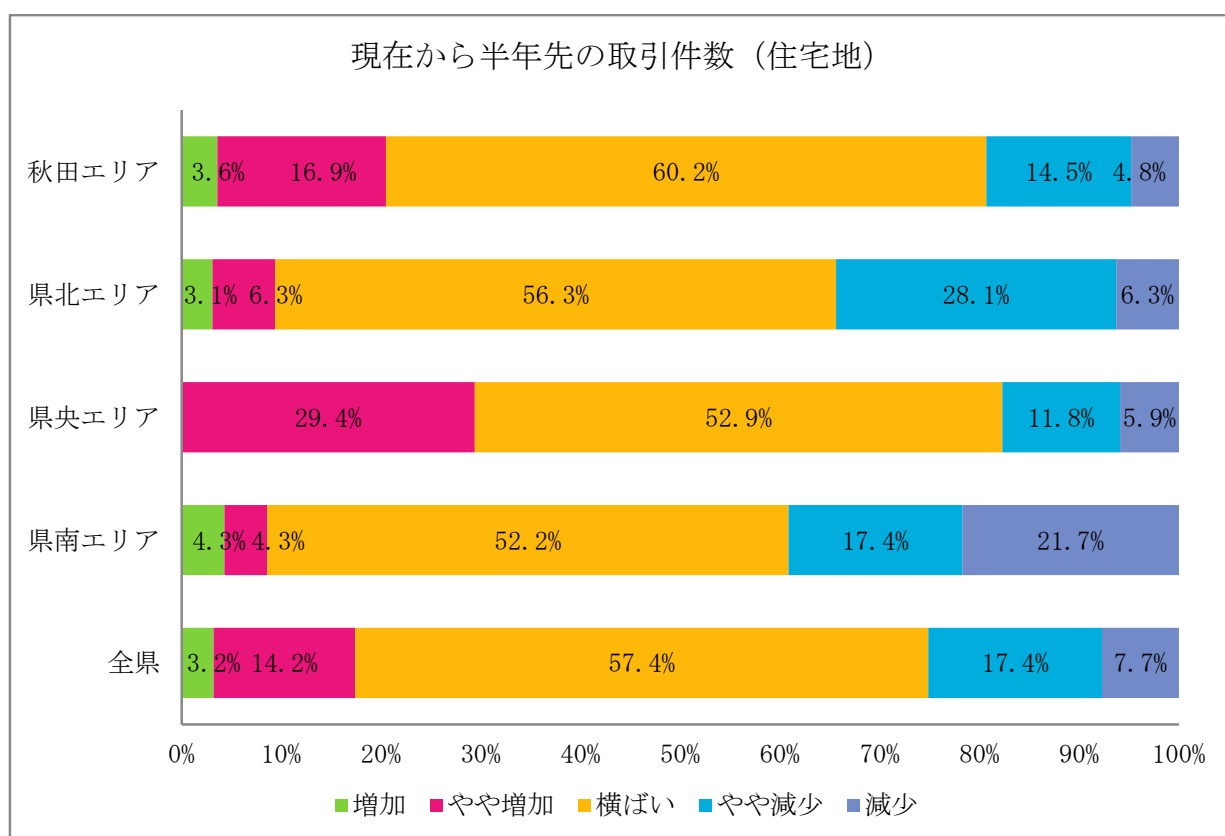
②実感値（住宅地）

問 4 取引件数（現在）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における過去半年の取引件数（住宅地）		増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少		不明	
秋田エリア	回答数	5	19	35	21	3	83	3	86
DI 指数	1.2P	6.0%	22.9%	42.2%	25.3%	3.6%	100.0%		
県北エリア	回答数	0	4	19	9	1	33	0	33
DI 指数	-10.6P	0.0%	12.1%	57.6%	27.3%	3.0%	100.0%		
県央エリア	回答数	1	5	6	3	2	17	0	17
DI 指数	0.0P	5.9%	29.4%	35.3%	17.6%	11.8%	100.0%		
県南エリア	回答数	1	1	12	7	4	25	0	25
DI 指数	-24.0P	4.0%	4.0%	48.0%	28.0%	16.0%	100.0%		
全県	回答数	7	29	72	40	10	158	3	161
DI 指数	-5.4P	4.4%	18.4%	45.6%	25.3%	6.3%	100.0%		



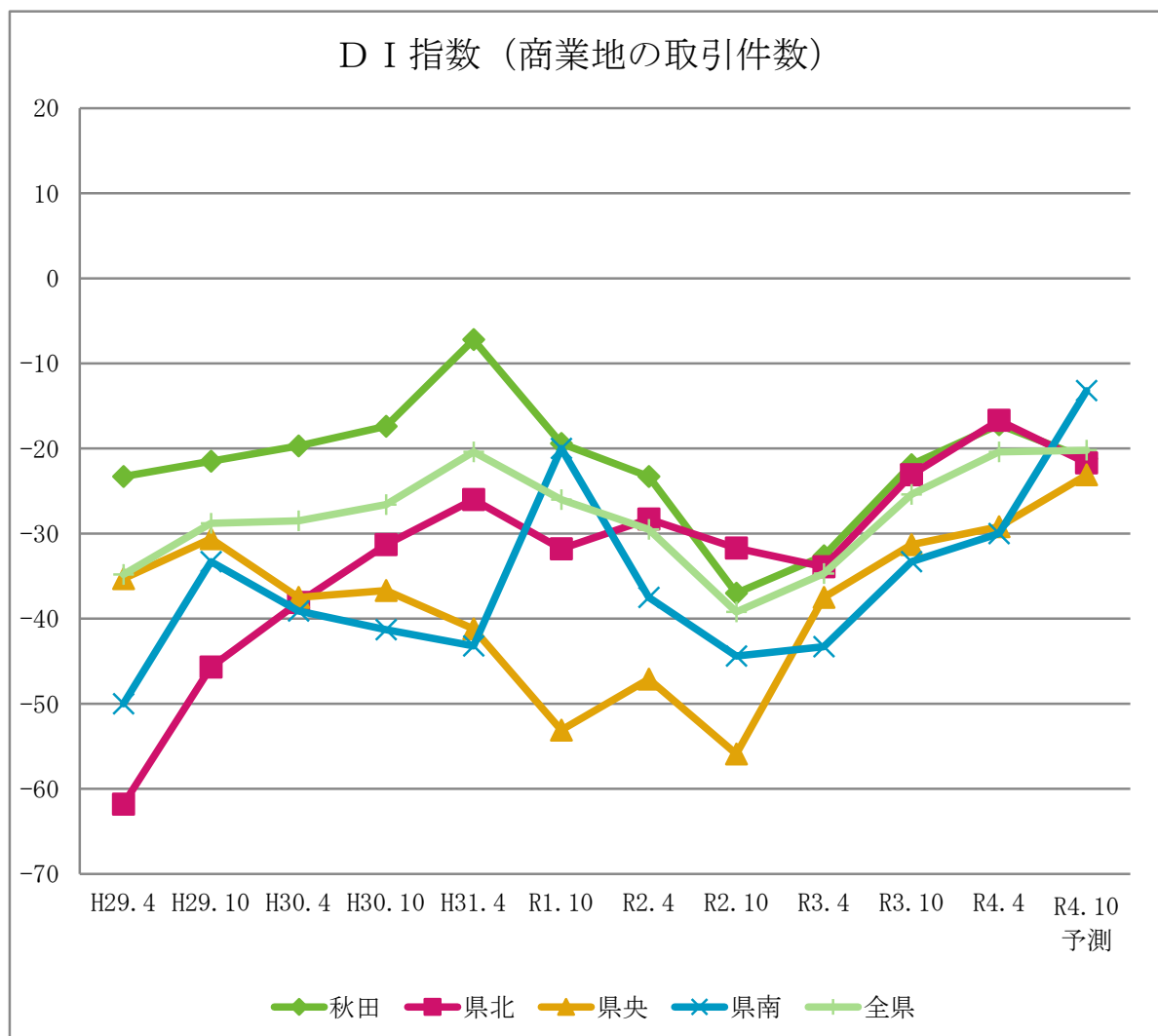
③予測値（住宅地）

問5 取引件数（将来）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における半年先の取引件数（住宅地）		増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少		不明	
秋田エリア	回答数	3	14	50	12	4	83	3	86
	DI 指数	0.0P	3.6%	16.9%	60.2%	14.5%	4.8%	100.0%	
県北エリア	回答数	1	2	18	9	2	32	1	33
	DI 指数	-14.1P	3.1%	6.3%	56.3%	28.1%	6.3%	100.1%	
県央エリア	回答数	0	5	9	2	1	17	0	17
	DI 指数	2.9P	0.0%	29.4%	52.9%	11.8%	5.9%	100.0%	
県南エリア	回答数	1	1	12	4	5	23	2	25
	DI 指数	-23.9P	4.3%	4.3%	52.2%	17.4%	21.7%	99.9%	
全県	回答数	5	22	89	27	12	155	6	161
	DI 指数	-6.1P	3.2%	14.2%	57.4%	17.4%	7.7%	99.9%	



(2) 商業地

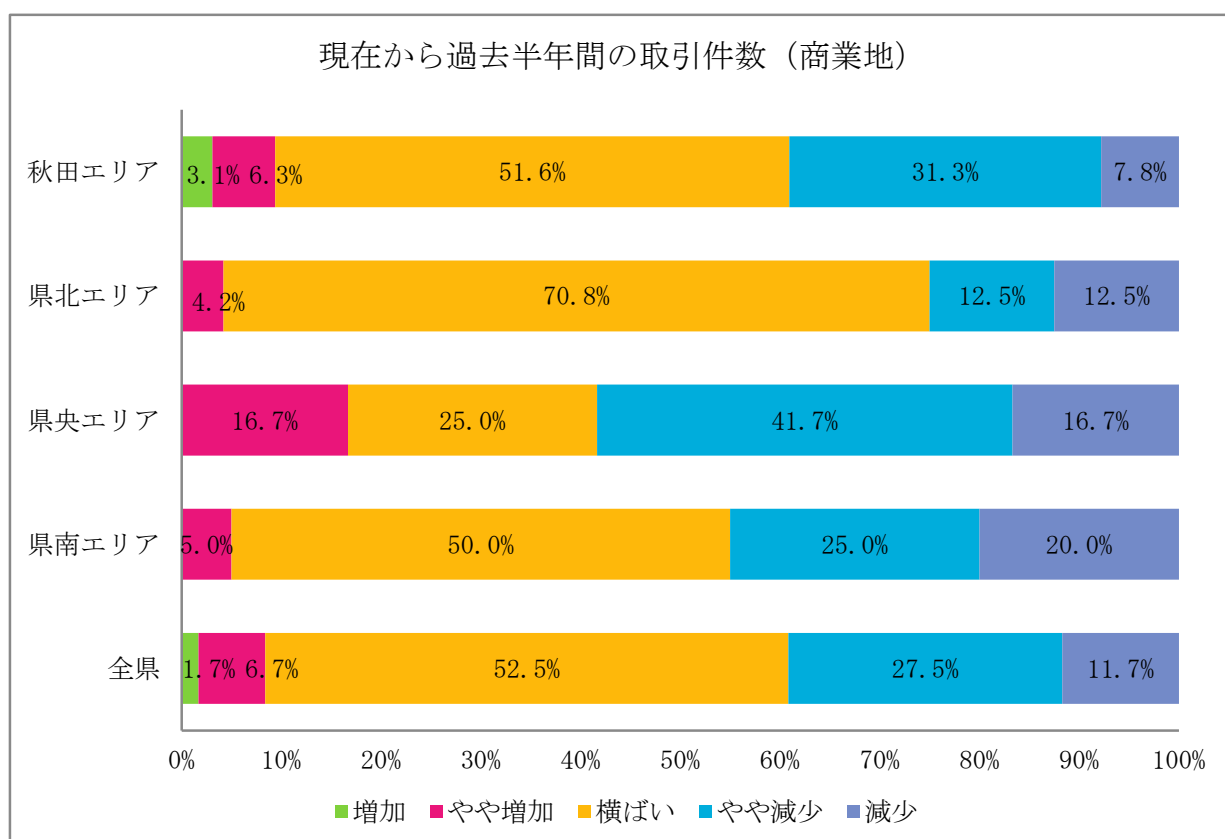
①D I 指数



エリア	H29.4	H29.10	H30.4	H30.10	H31.4	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10	R4.4	R4.10 予測
秋田	-23.3	-21.5	-19.7	-17.4	-7.2	-19.4	-23.3	-37	-32.6	-21.9	-17.2	-21.2
県北	-61.8	-45.7	-38.1	-31.3	-26	-31.8	-28.3	-31.7	-33.9	-23.1	-16.7	-21.7
県央	-35.3	-30.6	-37.5	-36.7	-41.2	-53.1	-47.1	-55.9	-37.5	-31.3	-29.2	-23.1
県南	-50	-33.3	-39.1	-41.3	-43.2	-20	-37.5	-44.4	-43.3	-33.3	-30	-13.2
全県	-34.8	-28.8	-28.5	-26.6	-20.4	-26	-29.5	-39.2	-34.7	-25.4	-20.4	-20.2

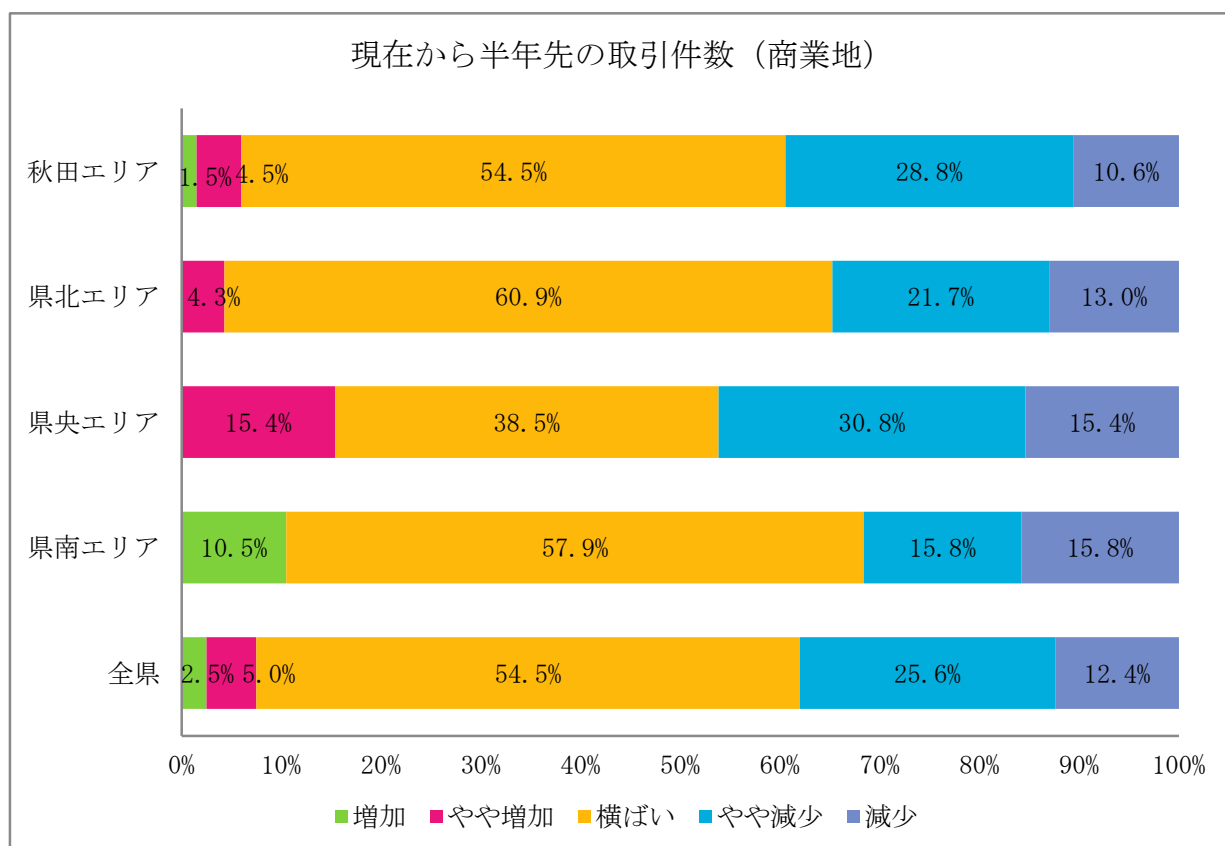
②実感値（商業地）

問4 取引件数（現在）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における過去半年の取引件数（商業地）		増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少		不明	
秋田エリア	回答数	2	4	33	20	5	64	22	86
DI 指数	-17.2P	3.1%	6.3%	51.6%	31.3%	7.8%	100.1%		
県北エリア	回答数	0	1	17	3	3	24	9	33
DI 指数	-16.7P	0.0%	4.2%	70.8%	12.5%	12.5%	100.0%		
県央エリア	回答数	0	2	3	5	2	12	5	17
DI 指数	-29.2P	0.0%	16.7%	25.0%	41.7%	16.7%	100.1%		
県南エリア	回答数	0	1	10	5	4	20	5	25
DI 指数	-30.0P	0.0%	5.0%	50.0%	25.0%	20.0%	100.0%		
全県	回答数	2	8	63	33	14	120	41	161
DI 指数	-20.4P	1.7%	6.7%	52.5%	27.5%	11.7%	100.1%		



③予測値（商業地）

問5 取引件数（将来）		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における半年先の取引件数（商業地）		増加	やや増加	横ばい	やや減少	減少		不明	
秋田エリア	回答数	1	3	36	19	7	66	20	86
DI 指数	-21.2P	1.5%	4.5%	54.5%	28.8%	10.6%	99.9%		
県北エリア	回答数	0	1	14	5	3	23	10	33
DI 指数	-21.7P	0.0%	4.3%	60.9%	21.7%	13.0%	99.9%		
県央エリア	回答数	0	2	5	4	2	13	4	17
DI 指数	-23.1P	0.0%	15.4%	38.5%	30.8%	15.4%	100.1%		
県南エリア	回答数	2	0	11	3	3	19	6	25
DI 指数	-13.2P	10.5%	0.0%	57.9%	15.8%	15.8%	100.0%		
全県	回答数	3	6	66	31	15	121	40	161
DI 指数	-20.2P	2.5%	5.0%	54.5%	25.6%	12.4%	100.0%		



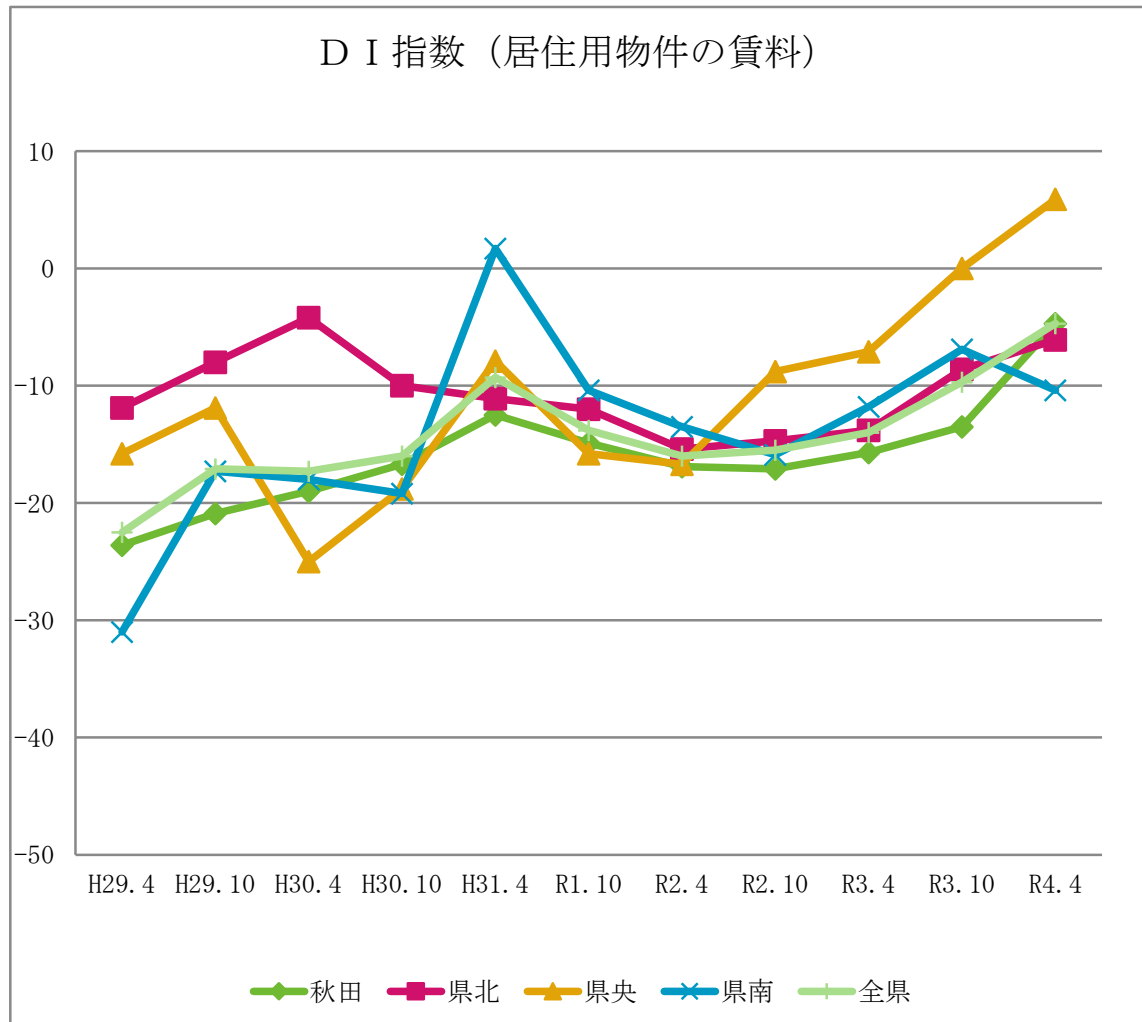
(3) 取引件数に関するまとめ

住宅地
(県全体) 全県における過去半年間の取引件数に関する実感値（R3. 10～R4. 4）は△5. 4P（前期0. 3P）で、今後半年間における予測値（R4. 4～R4. 10）は△6. 1Pであった。 実感値は、取引件数の指数は前回調査からマイナスに転じ、予測値でも悪化は継続することが予測されている。 (地域別) 実感値では、全ての地域で指数は悪化している。最も指数が高いのは秋田エリアで、+1. 2P（前期+2. 4P）であった。最も指数が低いのは県南エリアであった。 予測値では、県央エリアの指数が最も高く、県南エリアの指数が最も低い。
商業地
(県全体) 全県における過去半年間の取引件数に関する実感値（R3. 10～R4. 4）は△20. 4P（前期△25. 4P）で、今後半年間における予測値（R4. 4～R4. 10）は△20. 2Pであった。 全体的に住宅地の指数よりもマイナスが大きい傾向は依然として続いている。 実感値は、指数が改善しているものの、マイナスの指数は依然として大きく、予測値でも同程度の指数でありマイナスの傾向は継続している。 (地域別) 実感値では、全てのエリアで指数は改善している。最も指数が高いのは県北エリアで、△16. 7P（前期△23. 1P）であった。最も指数が低いのは、県南エリアで△30P（前期△33. 3P）であった。 予測値は、県南エリアの指数が最も高く、改善することが予測されている。最も指数が低いのは県央エリアであった。

(Ⅲ) 賃料水準の動向

(1) 居住用物件の賃料水準

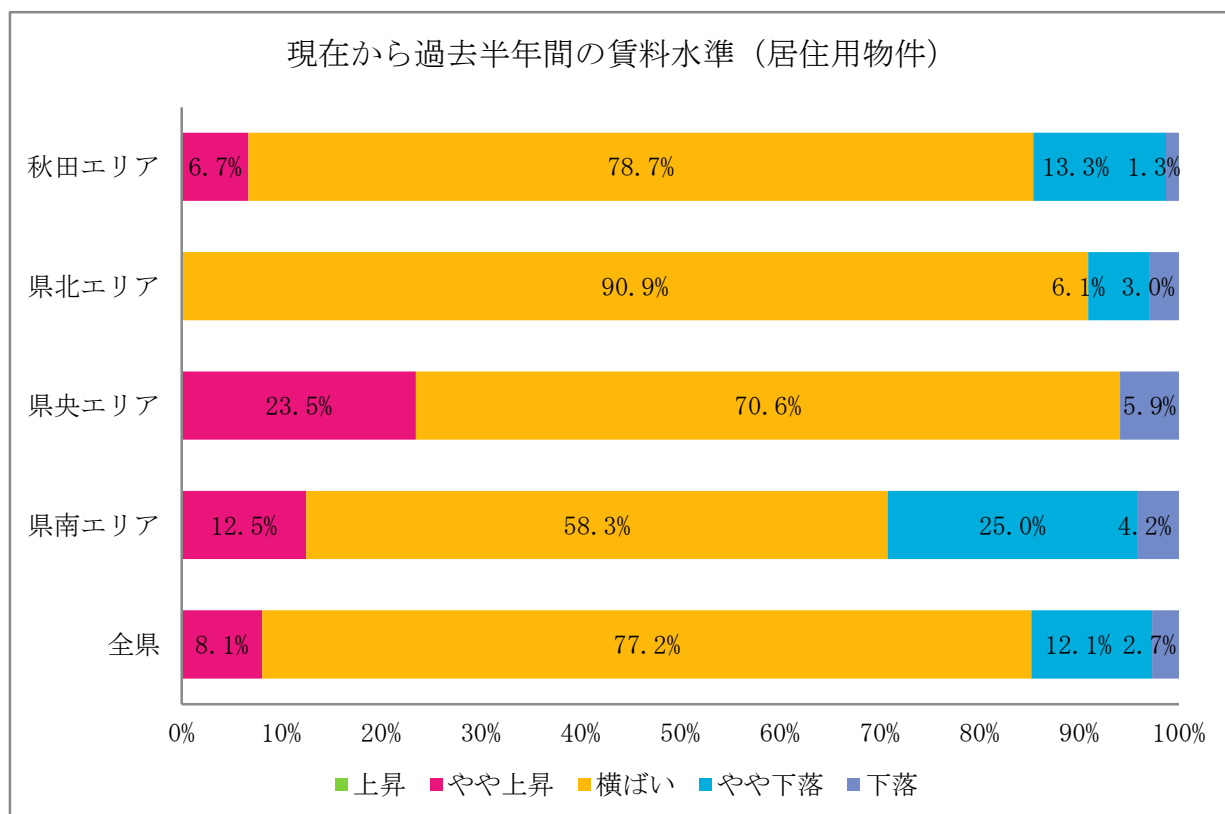
① D I 指数



エリア	H29.4	H29.10	H30.4	H30.10	H31.4	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10	R4.4
秋田	-23.6	-20.9	-19	-16.7	-12.5	-14.9	-16.9	-17.1	-15.7	-13.5	-4.7
県北	-11.9	-8	-4.2	-10	-11.1	-12	-15.4	-14.7	-13.8	-8.6	-6.1
県央	-15.8	-11.9	-25	-18.8	-7.9	-15.8	-16.7	-8.8	-7.1	0	5.9
県南	-31	-17.3	-18	-19.2	1.7	-10.4	-13.5	-15.9	-11.8	-6.9	-10.4
全県	-22.5	-17.1	-17.3	-16	-9.3	-13.8	-16	-15.5	-14	-9.7	-4.7

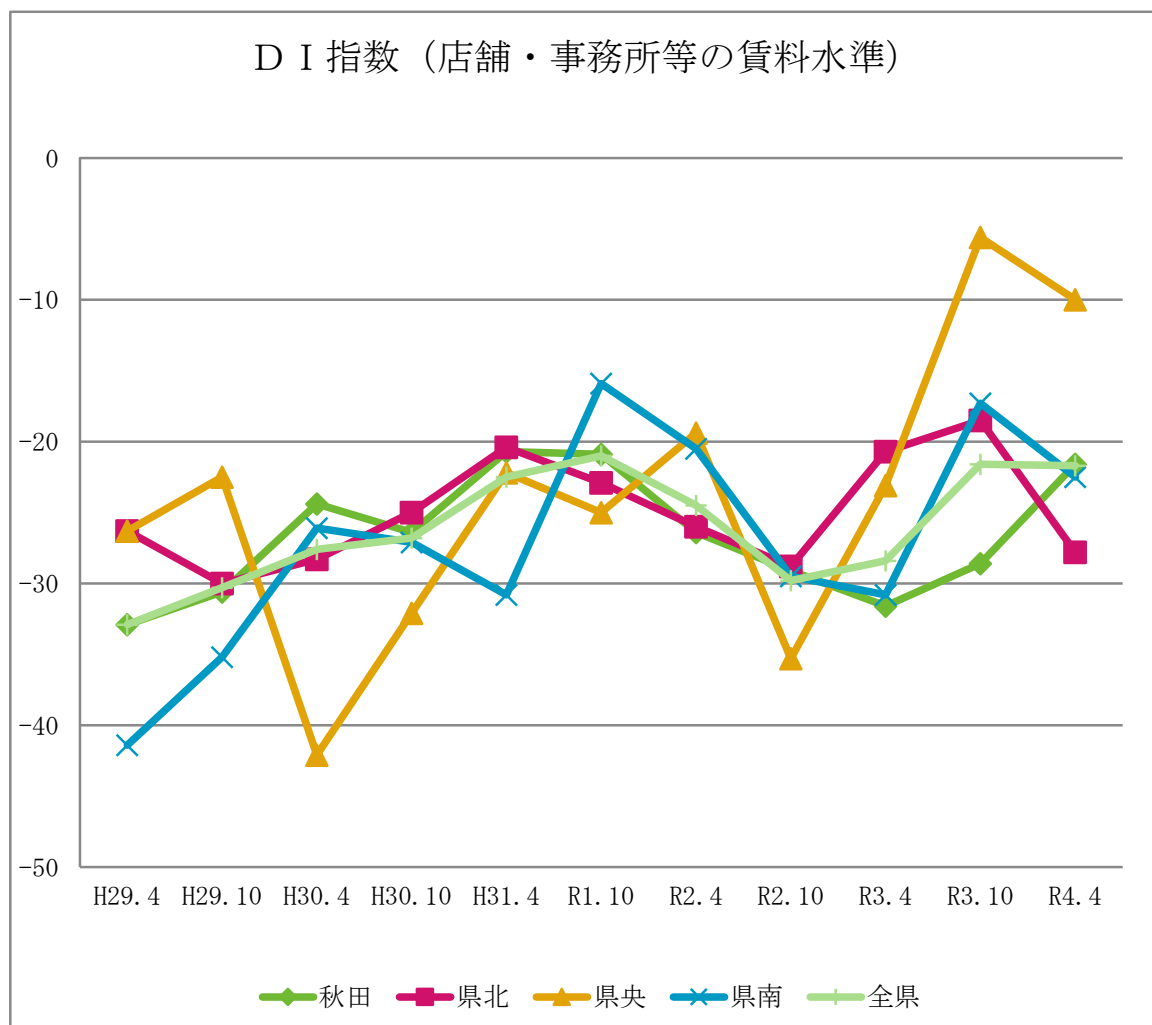
②実感値（居住用物件の賃料水準）

問 6 賃料水準(現在)		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における過去半年の賃料水準（居住用物件）		上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	下落		不明	
秋田エリア	回答数	0	5	59	10	1	75	11	86
DI 指数	-4.7P	0.0%	6.7%	78.7%	13.3%	1.3%	100.0%		
県北エリア	回答数	0	0	30	2	1	33	0	33
DI 指数	-6.1P	0.0%	0.0%	90.9%	6.1%	3.0%	100.0%		
県央エリア	回答数	0	4	12	0	1	17	0	17
DI 指数	5.9P	0.0%	23.5%	70.6%	0.0%	5.9%	100.0%		
県南エリア	回答数	0	3	14	6	1	24	1	25
DI 指数	-10.4P	0.0%	12.5%	58.3%	25.0%	4.2%	100.0%		
全県	回答数	0	12	115	18	4	149	12	161
DI 指数	-4.7P	0.0%	8.1%	77.2%	12.1%	2.7%	100.1%		



(2) 店舗・事務所等の賃料水準

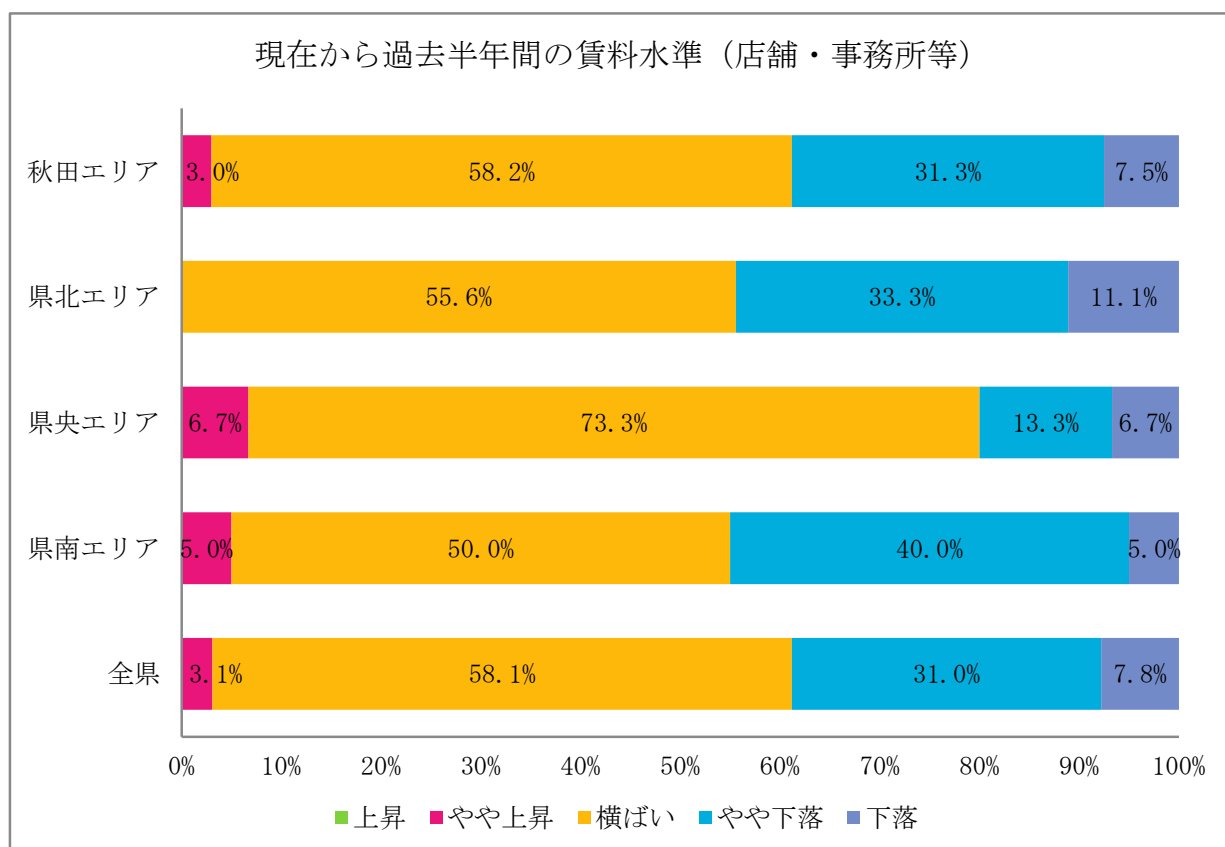
①D I 指数



エリア	H29.4	H29.10	H30.4	H30.10	H31.4	R1.10	R2.4	R2.10	R3.4	R3.10	R4.4
秋田	-32.9	-30.6	-24.4	-26.4	-20.7	-20.9	-26.4	-29.1	-31.6	-28.6	-21.6
県北	-26.3	-30	-28.3	-25	-20.4	-22.9	-26	-28.8	-20.7	-18.5	-27.8
県央	-26.3	-22.5	-42.1	-32.1	-22.2	-25	-19.4	-35.3	-23.1	-5.6	-10
県南	-41.4	-35.2	-26.1	-27.1	-30.8	-15.9	-20.5	-29.5	-30.8	-17.3	-22.5
全県	-32.9	-30.3	-27.6	-26.8	-22.5	-21	-24.5	-29.8	-28.4	-21.6	-21.7

②実感値（店舗・事務所等の賃料水準）

問 6 賃料水準(現在)		1	2	3	4	5	小計	6	計
調査時点における過去半年の賃料水準（店舗・事務所等）		上昇	やや上昇	横ばい	やや下落	下落		不明	
秋田エリア	回答数	0	2	39	21	5	67	19	86
DI 指数	-21.6P	0.0%	3.0%	58.2%	31.3%	7.5%	100.0%		
県北エリア	回答数	0	0	15	9	3	27	6	33
DI 指数	-27.8P	0.0%	0.0%	55.6%	33.3%	11.1%	100.0%		
県央エリア	回答数	0	1	11	2	1	15	2	17
DI 指数	-10.0P	0.0%	6.7%	73.3%	13.3%	6.7%	100.0%		
県南エリア	回答数	0	1	10	8	1	20	5	25
DI 指数	-22.5P	0.0%	5.0%	50.0%	40.0%	5.0%	100.0%		
全県	回答数	0	4	75	40	10	129	32	161
DI 指数	-21.7P	0.0%	3.1%	58.1%	31.0%	7.8%	100.0%		



(3) 賃料水準に関するまとめ

居住用物件
(県全体) 全県における過去半年間の賃料水準に関する実感値（R3.10～R4.4）は△4.7P（前期△9.7P）であった。 居住用物件の賃料水準については、指数はマイナスであるものの、その幅は縮小しており、回復傾向にある。
(地域別) 県南以外の全てのエリアで指数は改善している。 最も指数が高いのは県央エリアの 5.9P（前期 0P）であり、地域別で唯一プラス指数に転じた。最も指数が低いのは、県南エリア△10.4P（前期△6.9P）であった。
店舗・事務所等
(県全体) 全県における過去半年間の賃料水準に関する実感値（R3.10～R4.4）は△21.7P（前期△21.6P）であった。 全体的に居住用物件の指数よりもマイナスが大きく、商業系用途である店舗・事務所等の賃料動向は冷え込んでいる。
(地域別) 秋田市以外の全てのエリアで指数は悪化している。 最も指数が高いのは県央エリアで、△10P（前期△5.6P）であった。最も指数が低いのは、県北エリア△27.8P（前期△18.5P）であった。

(IV) 建設資材の価格高騰と需要への影響

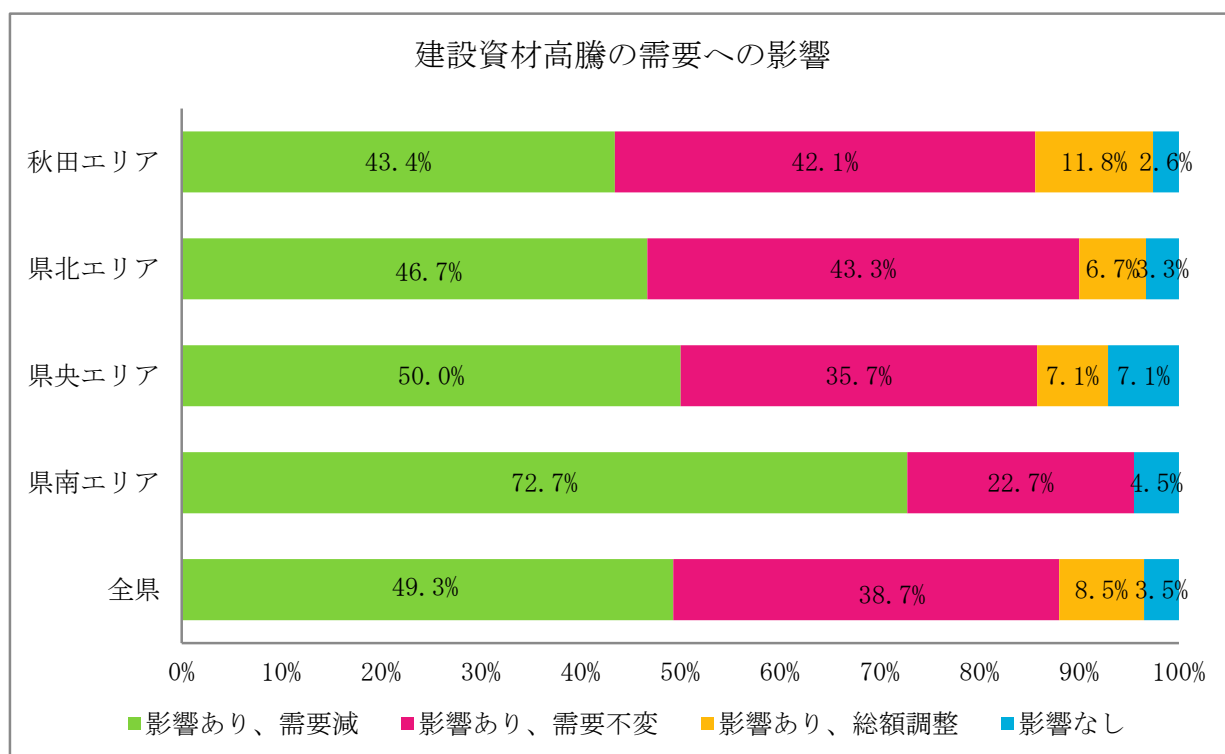
2021年に端を発したウッドショックにより木材価格の高止まりは継続している。これに加え、昨今のロシアによるウクライナ侵攻、更に数十年振りの円安水準といった複合的な要因から建設資材の高騰が指摘されている。

例えば、LIXIL社は2022年4月1日受注分から住宅用建材・設備の価格改定を行っている。住宅用サッシは10～12%程度、ウォールエクステリア、ガーデンエクステリアは10%程度、トイレは2～33%程度の上昇となっている。この上昇幅も昨今のロシアによるウクライナ侵攻等の影響が反映される前だとすれば、建設資材の高騰は更に大きな幅となるとの声もある。

本調査においては、こうした建設資材の高騰の影響が秋田県内の不動産需要についても影響を及ぼしているのか把握するため、以下の質問項目を設けた。(複数回答の方がいるため、アンケート回答総数とは一致しない。)

問 7	ウッドショックを始め様々な建設資材の価格高騰が指摘されていますが、実際の取引価格への影響はどのように感じていますか？	
	1	取引価格へ影響があり、需要を減退させる方向で作用している
	2	取引価格へ影響があるが、需要に大きな変化は感じない
	3	取引価格に影響があるが、総額感を大きく変えないような施策を講じている
	4	取引価格に大きな影響は感じない
	5	不明

問 7	1	2	3	4	小計	5	計
建設資材高騰の取引価格への影響はあるか	取引価格へ影響があり、需要減退	取引価格へ影響があるが、需要は大きく変わらない	取引価格へ影響があるが、総額感で調整	取引価格に影響はない		不明	
秋田	33	32	9	2	76	10	86
	43.4%	42.1%	11.8%	2.6%	100.1%		
県北	14	13	2	1	30	3	33
	46.7%	43.3%	6.7%	3.3%	100.0%		
県央	7	5	1	1	14	3	17
	50.0%	35.7%	7.1%	7.1%	100.1%		
県南	16	5	0	1	22	4	26
	72.7%	22.7%	0.0%	4.5%	100.0%		
全県	70	55	12	5	142	20	162
	49.3%	38.7%	8.5%	3.5%	99.9%		



建設資材の高騰と需要への影響

(県全体)

全県において、【4. 取引価格に大きな影響は感じない】の回答は 3.5%に過ぎず、影響ありの回答が多数を占めた。その内、最も割合が大きかったのは【1. 取引価格に影響があり、需要を減退させる方向で作用している】で 49.3%、次いで【2. 取引価格に影響があるが、需要に大きな変化は感じない】で 38.7%となり、当該 2 項目の回答が 88.0%を占めた。

(地域別)

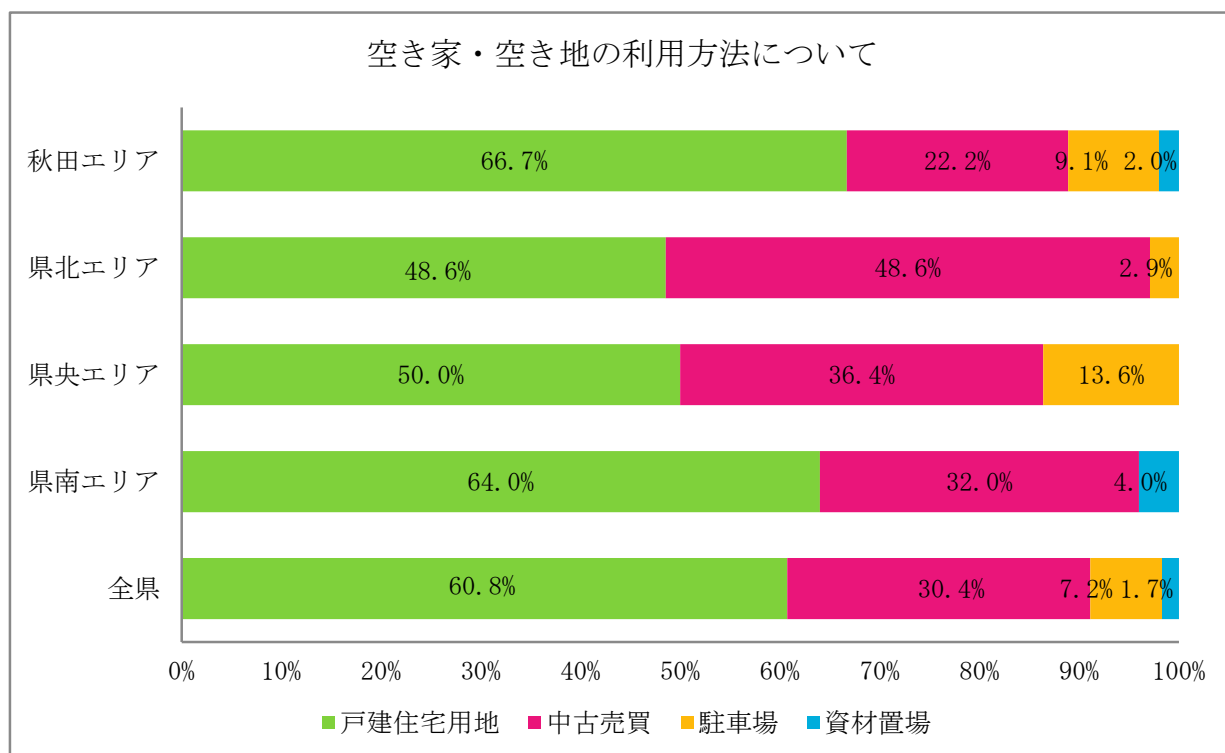
【1. 取引価格に影響があり、需要を減退させる方向で作用しているの割合が最も高い】のは県南エリアで 72.7%、最も低かったのは秋田エリアで 43.4%となった。【2. 取引価格に影響があるが、需要に大きな変化は感じない】の割合が最も高いのは県北エリアで 43.3%、最も低かったのは県南エリアで 22.7%となった。【3. 取引価格に影響はあるが、総額感を大きく変えないような施策を講じている】の割合が最も高いのは秋田エリアで 11.8%、最も低かったのは県南エリアの回答ゼロ、0%となった。【4. 取引価格に大きな影響は感じないの割合が最も高い】のは県央エリアで 7.1%、最も低かったのは秋田エリアで 2.6%の結果となった。

(V) 空き家、空き地の利用方法について

本件調査問 8 においては前回の調査同様、空き家・空き地問題についての項目とした。本設問は令和 2 年 3 月に国土交通省土地・建設産業局が発表した「地価の個別化・多極化に対応した鑑定評価手法の検討業務」において実施したアンケート調査と同様の内容としている。回答については、秋田県の不動産マーケットの状況も鑑み下記の選択肢とすると共に自由回答欄も設けた。(複数回答の方がいるため、アンケート回答総数とは一致しない。)

問8	空き家、空き地が何らかの形で利用される場合に、どのような利用方法が多いですか？	
	1	戸建住宅用地として利用する(既存住宅を取り壊すケースを含む)
	2	中古物件として売買する(リフォーム実施を含む)
	3	駐車場として利用する
	4	資材置場として利用する
	5	その他
		(自由回答)

問 8	1	2	3	4	小計	5	計
空き家・空き地の活用用途	戸建住宅用地 (既存住宅取り壊し含む)	中古で売買 (リフォーム含む)	駐車場	資材置場		その他	
秋田	66	22	9	2	99	3	102
	66.7%	22.2%	9.1%	2.0%	100.0%		
県北	17	17	1	0	35	1	36
	48.6%	48.6%	2.9%	0.0%	100.1%		
県央	11	8	3	0	22	0	22
	50.0%	36.4%	13.6%	0.0%	100.0%		
県南	16	8	0	1	25	4	29
	64.0%	32.0%	0.0%	4.0%	100.0%		
全県	110	55	13	3	181	8	189
	60.8%	30.4%	7.2%	1.7%	100.1%		



相談内容

(県全体)

全県において最も割合が高かったのは【1. 戸建住宅用地として利用する(既存住宅を取り壊すケースを含む)】で 60.8%、次いで【2. 中古物件として売買する(リフォーム実施を含む)】で 30.4%と当該 2 項目の回答が 91.2%を占めた。

(地域別)

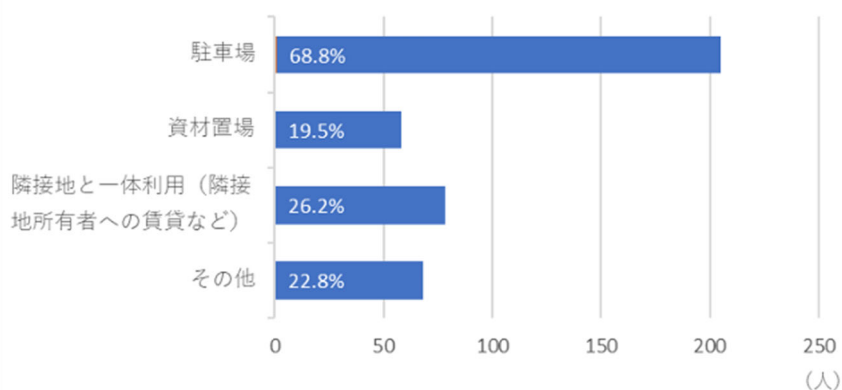
【1. 戸建住宅用地として利用する(既存住宅を取り壊すケースを含む)の割合が最も高い】のは秋田エリアで 66.7%、最も低かったのは県北エリアで 48.6%となった。【2. 中古物件として売買する(リフォーム実施を含む)】の割合が最も高いのは県北エリアで 48.6%、最も低かったのは秋田エリアで 22.2%となった。【3. 駐車場として利用する】の割合が最も高いのは県央エリアで 13.6%、最も低かったのは県南エリアで回答ゼロ、0%となった。【4. 資材置場として利用する】の割合が最も高いのは県南エリアで 4.0%、県北・県央エリアでは回答ゼロ、0%となった。

Q2-3:〔土地利用・未利用地の状況〕

空家や空地が何らかの形で利用される場合に、どのような利用方法が多いですか。

(複数回答可)		
駐車場	205	(68.8%)
資材置場	58	(19.5%)
隣接地と一体利用(隣接地所有者への賃貸など)	78	(26.2%)
その他	68	(22.8%)
全体	298	(100.0%)

Q2-3: 空家や空地が何らかの形で利用される場合に、どのような利用方法が多いですか。(複数回答可)



〔その他(68 件)]の主な回答

- 貸家・アパート・マンション等として貸す、借家を建てて貸す、一括して借り上げる (10件)
- 分譲住宅を建てて売買する (4件)
- 戸建等住宅用地として利用する(既存住宅を取り壊すケースを含む) (9件)
- 中古物件として売買する(リフォーム実施を含む) (5件)
- 市役所を経由して、宅建業者に販売等を依頼する
- 民泊
- 太陽光等、次世代エネルギー発電施設(3件)
- 企業や店舗を誘致する
- 家庭菜園 (2件)
- 空家・空地のまま、放置する(12件)
- 特に限定できない
- 利用方法がわからない

【参考】国土交通省「地価の個別化・多極化に対応した鑑定評価手法の検討業務」より引用

まとめ

本件調査において、住宅地の地価動向は半年前と比し改善傾向を示しているのに対し、住宅地の取引件数の指数はプラスからマイナスに転じている。また、予測値については地価動向・取引件数共に実感値と比し指数の悪化を示している。

足元の需要は堅調であっても、人気エリアにおける供給不足や建設資材の高騰や金利上昇の可能性といった負の要素が当該結果に反映されている可能性もある。特に本件調査の設問 7 で示した通り、建設資材の高騰が需要に与える影響の程度は大きいだろう。また、本県においては、少子高齢化に伴う人口減少から空き家・空き地の問題も深刻化しており、住宅を巡る問題は多岐に渡る。

商業地については地価動向・取引件数共にマイナスの指数が長らく継続している。改善指数を示したとしても多くの場合、マイナス幅の縮小というケースが多い。新型コロナの感染状況は調査時点においてはやや収束の傾向を示しているが、長期化したことによる影響が不動産需要にどのような影響を及ぼしていくのか慎重に見極めていく必要がある。今回の設問 8 で空き家・空き地活用について、回答を住宅系の向きに設定したが、商業用途の空き家・空き地の利活用現況についても注視していく必要があるだろう。

今後の調査においても、秋田県の不動産市場の実態を反映するよう、適切な設問設定等に尽力していきたい。

(VI) その他コメント

問 9 では地価変動や不動産取引の現状、今後の動向予想等のご意見を募りました。

以下では、記載されていたコメントを市町村別、アンケート到着順に列記しています。

また、下記コメントにおいては問 8 の空き家相談のフリーコメントについても併せて列記させていただきます。

なお、新型コロナウイルス感染症については様々な呼称でコメントを受けましたが、以下では「新型コロナ」の略称に統一して記載します。

(1) 秋田エリア

(秋田市)

- 八橋・泉・保戸野・手形西谷地地区は物件不足であり、人気エリアであるため今後更に上昇が見込まれる。
- 戸建住宅用地の取得が難しくなっている。
- 物件、特に土地がない。あったとしても住宅会社の建築条件付の土地しかなく、価格を釣り上げている感じがする。
- 秋田市内の中心に近いエリアでは、需要と供給のバランスが崩れているような気がする。土地探しに大変苦労している。
- 今もって戸建住宅地が不足しており、人気のある地域は地価が上昇。
- 商業地のみならず、住宅地の空き家物件も取壊し後、駐車場となる物件が増えてきている。
- 住宅ローン金利に注目。川尻・八橋・泉・外旭川等の土地が上昇。
- 保戸野・泉地区の値上がりが著しい。
- 秋田駅東部エリア(広面・東通・手形)や泉エリアでは公示価格より高めに設定されている。
- 秋田市中心部の土地価格の持ち直しは顕著であるが、そろそろ上限に近付いていると感じられる。住宅価格の上昇の影響もあり、土地は徐々に下がる(土地建物で購入できる層の減少)と思われる。
- 秋田市中心では、土地がない感覚がある。
- 住宅ローン減税の縮小傾向により、早めに建物を建築しようとする人が増える結果、一時的に土地の取引、価格は増加・上昇するが、後に反動で価格、取引件数ともに減少するという現象が起きそうである。それに伴い、中古住宅の取引は増えると考えられる。
- 泉・保戸野・手形西谷地・東通などの住宅地は需要に対し供給が少ない状況が続いており、現在も地価上昇が続いていると感じている。

- 新型コロナの影響で飲食店はかなり厳しく、テナント募集しても決まらない。保戸野・泉など中心部に近い住宅地の地価はやや上昇しているように感じる。
- ウッドショックや半導体不足による各値上げや、入荷待ち等の変化があるものの、「今のうちに」という事なのか、建物は建っているし需要もあるように感じる。しかし、この状況は長くは続かないように思われる。今後、新築建物の価格 40～50% の値上がりになる勢いなので、購入できる人は限られてくる。土地はハウスメーカーに買い取られ、中古住宅は解体又は直接流れ、全体的に物件不足に感じる。
- 不動産取引(土地売買)に新型コロナ、世界情勢の影響は殆どない。
- 地価は下げ止まった感がある。同じ地域でも条件の良い物件は少し強めの価額でも売れるケースが見られる。
- 空き家の所有者住所が不明のものは極めて多く、流通には時間が掛かっている。
- 近い将来、業界に影響を及ぼすであろう少子化。どの程度業績に変化をもたらすのか、将来に対する不安は大きい。
- 秋田市内の休耕地は高く売買される例が多く見られる。
- 駅東地区は供給が少なく値上がりしている。今後も同様の傾向が継続すると考えられる。保戸野・泉地区も同様と思う。
- 秋田市内に関して住宅地の地価については市中心部の状況で上昇傾向の旨で回答した。郊外はやや下落から下落と二極化が著しい。
- 中心部(秋田市)は上昇している。反面、北部(秋田市)は下落している。
- 新型コロナで資材が高くなりそれに加えて、ロシア、ウクライナで食料、エネルギー全てが値上がり、土地、建物等に何らかの影響が出てくると思う。
- 新型コロナの影響により、物が無い、修理等も進まない。
- 泉・川尻・駅東地区(秋田駅まで徒歩 15 分以内)の人気地区等(小学校に近い、商業施設に利便性が高い総合病院近く等)とそれ以外の格差が大きい。
- 秋田市以外の土地希望の顧客が特に少なくなった。築浅の中古住宅が極端に少ない。
- 秋田駅前の商業地の価格下落がいつまで続くのかが不透明である。住宅地は局地的に上昇しているが基本的に下落が目立つ。新型コロナの影響で人の流れがなくなっている中で取引件数の減少になっている要因の一つであるが、土地価格の下落にならないで欲しい。
- 住設機器の価格上昇や納期の遅れもあり、新築住宅の着工数への影響がある(工期の遅れ、引渡しの遅れ)。しばらく続くものを危惧している。
- 戸建住宅の受注中心にて、商業地の取引、賃貸については回答できない。
- ウッドショック、新型コロナ、ウクライナの戦争で物価の高騰、建築資材の高騰により不動産取引が停滞するのではないかと懸念している。

- コンパクトシティに向けて、居住誘導区域の品薄感がまだ継続しそうだが、街の将来ビジョンが不明瞭な状況で、魅力ある街づくりが保てるか疑問に感じる。
- 近年は特にマンション入居者が増えている。秋田市の中心地区では土地を求めて建築する人は少ない。
- 駅東地区と八橋・寺内地区の住宅用地需要の高さを感じる。事業用物件の需要は増えているようだが価格は下落傾向に感じる。
- 土地は定借、建物は所有という中古ビジネスを流通させていきたい。
- 郊外の今まで不人気エリアも上昇傾向にある。
- 駅東エリア(手形・広面)、泉エリア(保戸野・泉・八橋)が値上がりしているが、他は下落している。
- 中心市街地の活性化が必要、それにより需要が喚起する。
- 古家付土地売買について売主は他県の方が多い。
- 売主は県外へ移住する方が多い。
- 買主は若い30代中心である。
- 地元ビルダーや不動産会社の高値での仕入れ、売出しにより市場価格への影響が出ている。

(2) 県北エリア

(能代市)

- 東能代地区は中国木材の進出が予定されており、賃貸住宅等の投機目的により価格が上昇傾向にある。また、洋上風力発電関連の企業出店により事務所、倉庫が不足傾向にある。

(大館市)

- 今のところ建築件数は増加していると感じられ、土地売買はもう少しの間増加と考える。土地の値下げがされない場合、空き家を解体するケースも増えると思われる。
- 新型コロナが早く落ち着いて欲しい。新型コロナ以前に戻るのには難しいだろうが、変化にどのように対応するか苦慮している。
- 人口減少に伴い空き家が増加しているので、売手増に対し、買手減は当分続くものと思う。
- 中古住宅の売却相談が増えているが、物件は劣化が進行していたり、未登記や相続であったりに対応業務が増え、扱いに苦慮。

(鹿角市・小坂町)

- 様々な良くない諸条件によって、景気が悪くなっていく方向に向かっているような雰囲気を感じる。役所の支援があってはじめて、新築・中古住宅・リフォームの事

業が動いているような気がするので、支援の継続はもとより、もう少し手厚い支援も必要ではと感じている。

(3) 県央エリア

(由利本荘市)

○ウッドショックや戦争の影響で資材が10～30%の値上がりになるため、需要が落ち込んでいるのを感じる。資材が下がらないので地価にも影響がある。由利本荘・にかほはTDK関連の動きが好材料になればと思うが、まだ特に動きはない。

○当地域ではダム工事、風車工事によりアパート、空き家の需要期待できる。

○TDK関連の賃貸需要が高く、極端に賃貸空室が少ない状態。この状況により、新築アパートの建築も増加していくのではと感じている。

(潟上市)

○資材の高騰、人手不足が住宅及び住宅流通が更に厳しくなるもの考える。

○追分地区のみ地価の上昇がみられるが、潟上市全体(追分地区以外)では、まだまだ下落していくと思われる。追分地区は宅地分譲地(開発)が地価を押し上げていると思われる。

(男鹿市)

○船越地区は今後やや増加が見え始めてきている。

(南秋田郡)

○人口減少と地価安のため、相変わらず需要は弱い。最近、30～40代夫婦(子供あり)の住宅(中古・農家住宅)を求める問い合わせが増えたと思う。新築よりも広く安価な中古物件が取引されているようである。

(4) 県南エリア

(横手市)

○住宅地は横ばい価格と思われる。テナントの物件数が少ない割に問合せ案件が多い。

(大仙市)

○資材等高騰しているが、なかなか請負工事額に反映しにくいのが現状。下請業者の請求もいきなり高くなっていたりして、赤字請負になってしまい困っている。美郷町若者指定補助金等のおかげでニーズはある。補助金は助かっている。

(仙北市)

○ウッドショックや新型コロナの影響は残るだろうが、緩やかに取引数や経済活動は上昇している実感がある。

○中古物件の売買はたくさんあるが、建物解体費用があまりかかるために取引にならない状態。建物解体費用が補助金的に欲しい。

(湯沢市)

○少なくとも当事務所では、例えば売却依頼物件の価格も、従来の価格設定では流通せず、かなりインパクトのある低価格設定でやっと成約になる事例が増加傾向であり、残念ながらこの状況は今後も続くと思っている。

(雄勝郡)

○羽後町に関しては、都市計画がないことから農地の宅地分譲ができない。それにより空いている敷地に住宅を建てることになる。物件が少ないことで価格が数年前より上昇している。

本調査は下記の組織のもと、委員会が編成され活動し、発行しました。

これからも継続して活動を行う秋田県不動産市場D I 調査では、皆様のご意見をお伺いしながら進めてまいります。私どもの活動に少しでもご関心を持っていただけたら、引き続きお力をお貸しいただければ幸いです。

発行元	
組 織	一般社団法人秋田県不動産鑑定士協会 会長 山陰逸郎
委員会	調査研究委員会主導のもと、下記の参加者により不動産 D I 調査活動を行いました。 調査研究委員会 委員長 石塚伸宏 委 員 戸澤一喜、佐藤信博、平野太郎
問い合わせ窓口	調査研究委員会 委員長 石塚伸宏 (所属先) 株式会社 S h i n w a A C 〒010-0918 秋田市泉南1丁目15番25号 新和ビル2階 電話：018-853-5665 FAX：018-838-6558